MITSUBISHI

三菱 電気 温水器

時間帯別電灯（通電制御型）／深夜電力 8時間（通電制御型）

形名

追いだきフルオート

（　）はタンク容量

高圧力型

SRT-J37W3（370L）　SRT-J37WD3（370L）
SRT-J46W3（460L）　SRT-J46WD3（460L）
SRT-J55W3（550L）　SRT-J46WDM3（460L）
SRT-J55WD3（550L）

フルオート

（　）はタンク容量

高圧力型

SRT-J37F3（370L）
SRT-J46F3（460L）

標準圧力型

SRT-J37FH3（370L）
SRT-J46FH3（460L）

エコオート

（　）はタンク容量

高圧力型

SRT-J37C3（370L）　SRT-J37CD3（370L）
SRT-J46C3（460L）　SRT-J46CD3（460L）
SRT-J55C3（550L）　SRT-J46CDM3（460L）
SRT-J55CD3（550L）

標準圧力型

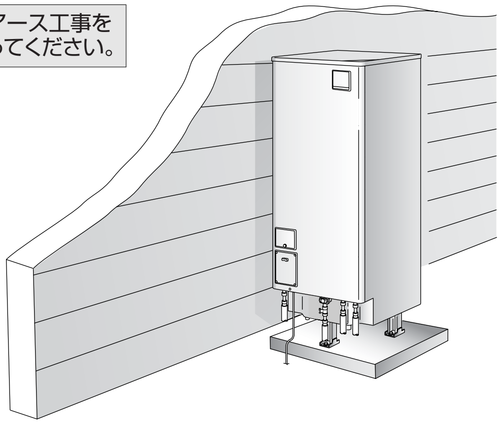
SRT-J37CH3（370L）
SRT-J46CH3（460L）

※リモコンは別売です。
※エマージェンシーストップ機能付きは形名に「D」が付きます。

据付工事説明書

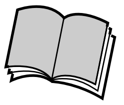
この製品の性能・機能を十分に発揮させ、また安全を確保するために、正しい据付工事が必要です。据付工事の前に、この「据付工事説明書」を必ずお読みください。この説明書に記載されていない方法や保証書と適合しない内容で工事された場合、また、当社指定部品を使用せず工事された場合、事故や故障が生じたときには責任を負いかねます。

※必ずアース工事を行なってください。



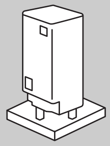
販売店・工事店さま用

据付工事は、販売店または専門業者が行なってください。お客さまが据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災などの原因になります。



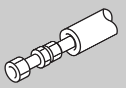
1.工事の前に

1-1.安全のために必ずお守りください　2
1-2.工事の流れ　3
1-3.工事に必要な部材　4
1-4.外形寸法図　6



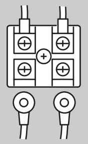
2.据付工事

2-1.据付場所の選定、据付制約　7
2-2.温水器の据付　8



3.配管工事

3-1.配管工事の前に（配管制約）　10
3-2.凍結防止・保温工事　12
3-3.階上（2、3階）給湯・階下給湯　13
3-4.樹脂管使用時の施工要領　14



4.電気工事

4-1.電気工事　18
4-2.温水器への配線工事　20
4-3.アース（接地）工事　21
4-4.リモコン工事　22

5.工事完了確認（試運転）

5-1.チェックリスト　24
5-2.試運転手順　25
5-3.お客さまへの説明　28
5-4.エラーコードと処置　29

仕様表　31

工事完了後の確認　裏表紙

据付工事をされる方へ

- 必ず水道法に定められた飲料水の水質基準に適合した水道水を使用してください。ただし、水質によっては、タンク・減圧弁・逃し弁等の寿命が通常より短くなることがあります。特に温泉水・地下水・井戸水のご使用は機器をご使用いただく期間の水質が、常に水道法の定める水質基準内である担保が取れないため、使用しないでください。（不具合が発生した場合、無償保証できません。）
- この製品は作動中に運転音がします。運転音や振動が気になる場所には据え付けないでください。また、各地区の騒音規制等に関する条例に従って設置してください。
- この製品は、単相200Vで動作します。
- 本体内蔵減圧弁からの2次給水はできません。
- 運搬するときは、前面カバーを上にして本体背面の取っ手と脚を持ってください。また、高層住宅などへのつり上げ運搬は、つり上げ台を使用してください。
- 製品の上面には上がらないでください。変形することがあります。
- 本体1台に対して接続できる浴槽は1つです。（使用する浴槽の大きさの目安は、220L～350Lです。）
- 他の温水器との複数接続はできません。
- 本体と太陽熱温水器との接続はできません。
- 製品、梱包材等を廃棄する際には、法令等に基づいた適切な処置をお願い致します。

1-1.安全のために必ずお守りください

■本文中に使われる図記号の意味は次のとおりです。

禁止	指示に従う	アース線接続

警告

誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷に結びつく可能性があります。

準備と確認

据付け前に必ず確認する（事故・故障を防ぐ）

□上水道直結の配管工事は、当該水道局（水道事業管理者）の認定水道工事業者が指定された配管材料を使用して施工してください。
□電気工事は、「電気設備に関する技術基準」および「内線規程」に従って電気工事士が施工し、必ず、専用回路を使用してください。
□風があたらない、平らな場所に開梱・仮置きする　□電源ブレーカーを切る

設置

つぎの場所には設置しない（火災・感電を防ぐ）

□ガス類、引火物の近く　□湿気の多い場所

工事

アースは確実に取り付ける（火災・感電を防ぐ）

アース接続

□万一の感電事故防止のため、「電気設備に関する技術基準」および「内線規程」に従って電気工事士がD種接地工事を行ってください。

□電源ケーブルは確実に取り付ける　□階下給湯は5m以内とする
□満水時の重量に耐える基礎工事を行う

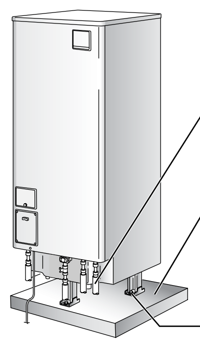
漏電遮断器（2カ所）の動作を確認する（感電を防ぐ）

注意

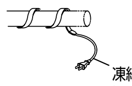
誤った取扱いをしたときに、傷害または家屋・家財などの損害に結びつきます。

つぎの場所には設置しない

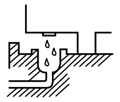
□水につかる場所（感電を防ぐ）
□温泉地帯など特殊な場所
□水平でない場所
□階段・非常口付近
□排水しにくい場所
□油分の付着しやすい場所（キッチンなど）



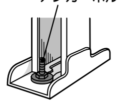
□凍結防止対策をする
（配管破損によるやけどを防ぐ）



□床面の防水・排水処理をする
（水漏れによる損害を防ぐ）



□脚をアンカーボルトで固定する
（転倒によるけがを防ぐ）



工事

□定格を確認する（火災を防ぐ）　□工事作業中は手袋を着用する（けがを防ぐ）
□上部振れ止め金具を壁に固定する際、アンカーボルトが壁内のラス網と電気的に絶縁している状態で行う（火災・感電を防ぐ）
□凍結防止ヒーターの施工についての詳細は、凍結防止ヒーターに同梱の説明書に従う（火災を防ぐ）

設置

□2階以上に据付ける場合は、上部振れ止め金具で本体を固定する（転倒によるけがを防ぐ）
□当社指定部品を使う（事故を防ぐ）

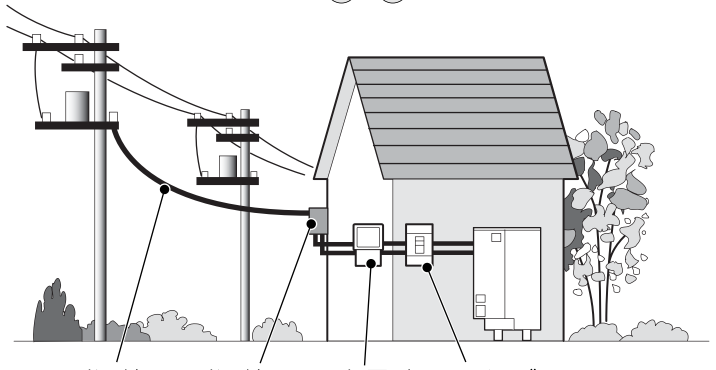
1-2.工事の流れ

既築住宅の場合、東京電力管内での標準的な工事例は以下のようになります。

- 事業者さまが「高圧力型 電気温水器」を事務所、店舗などでご使用される場合は、労働安全衛生法の規準があり、特別な申請が必要です。同梱の「事業者さまへのご案内」に従い申請を行なってください。
- 施工条件などにより手順が前後する場合があります。
- ガス機器から電気機器へ変更をする際（ガス給湯機から電気温水器や自然冷媒CO_2ヒートポンプ給湯機への取替など）は、事前にガス事業者への連絡が必要になります。ガス事業者への連絡をせずに無断撤去することは法令により規制されておりますのでご注意ください。
- この温水器は、申請によって通電制御型として電気料金の割引きが適用されます。適用を受けるため、最寄りの電力会社に申請していただくようお客さまに説明してください。（買替えなどで機種変更した場合も電力会社へ申請が必要です。）
- ※は施工場所の配線の状況などにより不要となる場合があります。

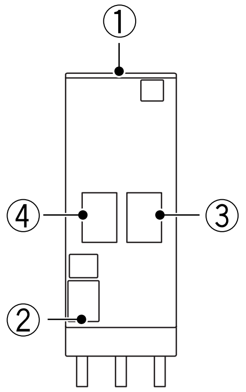
工事区分	担当	内容
① 電力会社への申請	工事店	・電気使用申込書提出 ・施工証明書提出 ・引込線工事の日程調整
② 配線工事※	工事店	・引込線取付点から電力量計の配線工事 ・電力量計から電源ブレーカー（配線用遮断器）の配線工事
③ 引込線工事※	電力会社	・電力量計交換 ・引込線工事（アンペアブレーカー交換） ・タイムスイッチ取付（深夜電力契約時）
④ 据付工事	工事店	本書の内容 ・据付 ・配管 ・電気工事 ・リモコン工事 ・試運転、確認
⑤ 調査	電力会社	据付確認、漏電の検査など
⑥ 使用開始		

①、⑤の詳細については最寄りの電力会社にお問い合わせください。

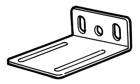
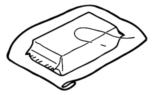


1-3.工事に必要な部材

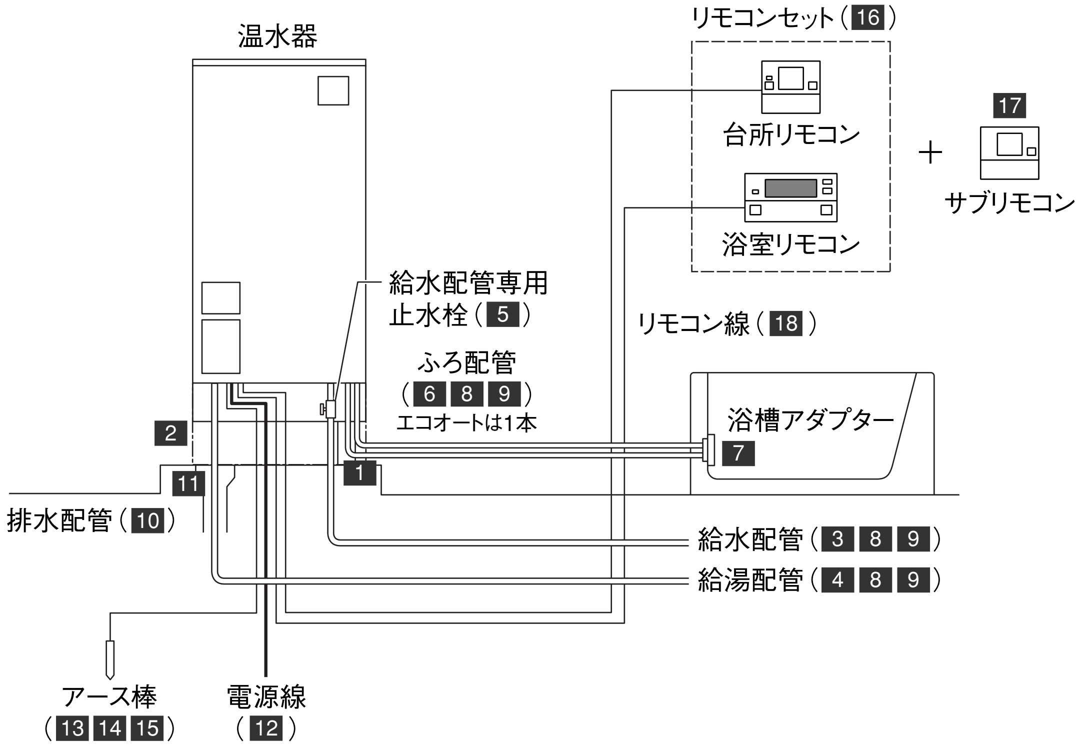
(1) 温水器本体



同梱部品　（　）は同梱場所

①上部振れ止め金具（天板に固定）  1個	②パテセット（工事用窓内）  1個	③取扱説明書 据付工事説明書 保証書 非常用取水ホース（正面にテープ止め） 1式	④ボイラー明細書 事業者さまへのご案内（正面にテープ止め） ※高圧力型のみ 1式

(2) 部材一覧（図中の番号は、次ページの表に対応しています。）



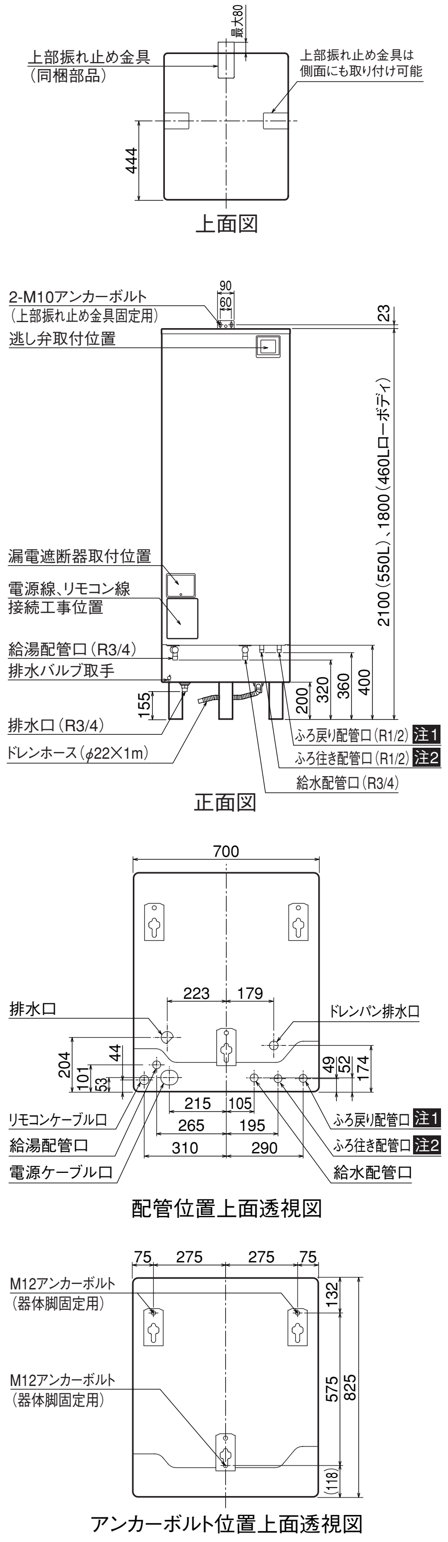
※深夜電力契約時は、わき上げ用と制御用の2本が必要です。（詳しくは18～19ページ参照）

1-4.外形寸法図〈単位:mm〉

●本体

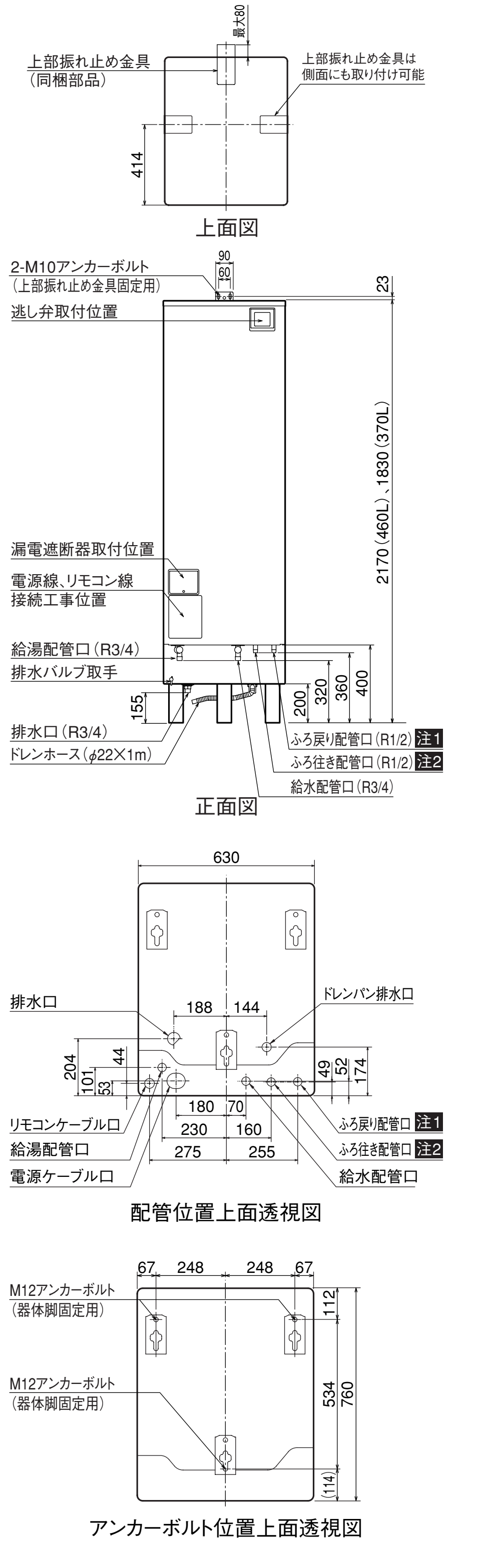
550L、460Lローボディ

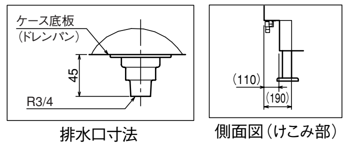
SRT-J55W3、SRT-J55WD3、SRT-J46WDM3
SRT-J55C3、SRT-J55CD3、SRT-J46CDM3



460L、370L

SRT-J46W3、SRT-J46WD3、SRT-J37W3、SRT-J37WD3
SRT-J46F3、SRT-J46FH3、SRT-J37F3、SRT-J37FH3
SRT-J46C3、SRT-J46CD3、SRT-J37C3、SRT-J37CD3
SRT-J46CH3、SRT-J37CH3



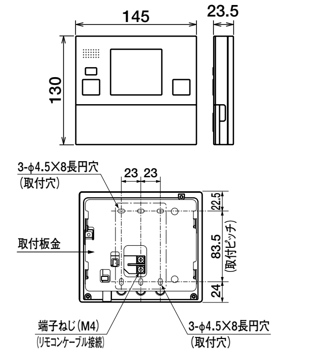


注1 注2
ふろ戻り配管口、ふろ往き配管口は追いだきフルオート、フルオート機種の名称です。エコオート機種では、ふろ戻り配管口がふろ配管口となります。

●リモコン

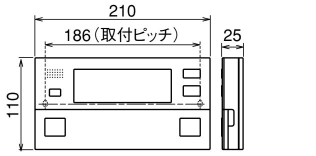
スマートリモコン

- 台所リモコン（RMC-KD3-W／N／A、RMC-K3）
- サブリモコン（RMC-KZ3）



※取付板金を使用

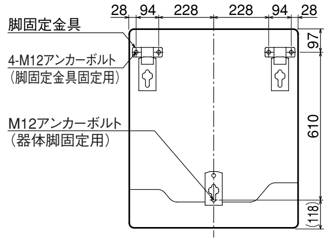
- 浴室リモコン（RMC-BD3-W／N／A、RMC-B3）



温水器の後脚がアンカーボルトで固定できない場合

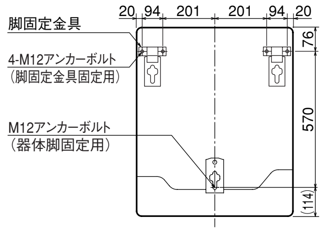
脚固定金具（当社別売部品 GZ-6D）を使用してください。

- 550L、460Lローボディ



脚固定金具使用時アンカーボルト位置上面透視図

- 460L、370L



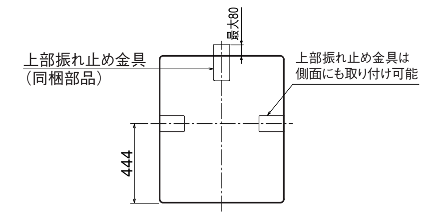
脚固定金具使用時アンカーボルト位置上面透視図

1-4.外形寸法図〈単位:mm〉

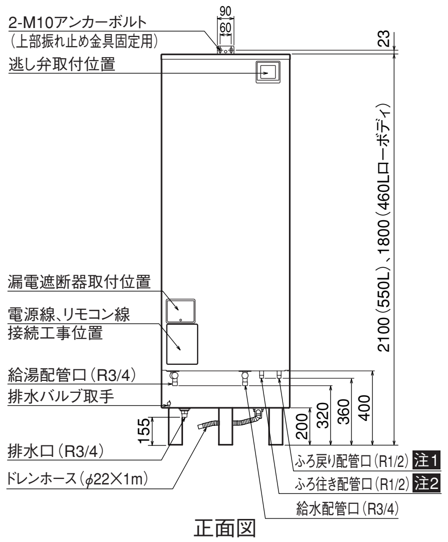
●本体

550L、460Lローボディ

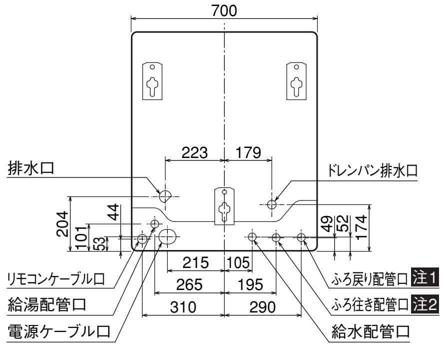
SRT-J55W3、SRT-J55WD3、SRT-J46WDM3
SRT-J55C3、SRT-J55CD3、SRT-J46CDM3



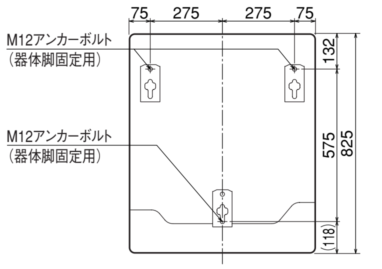
上面図



正面図



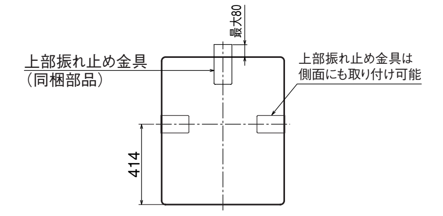
配管位置上面透視図



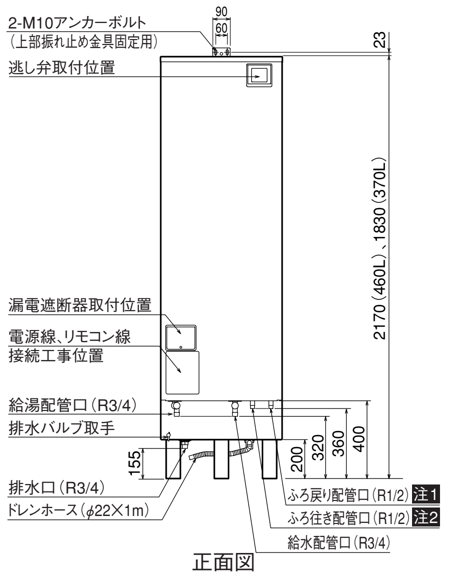
アンカーボルト位置上面透視図

460L、370L

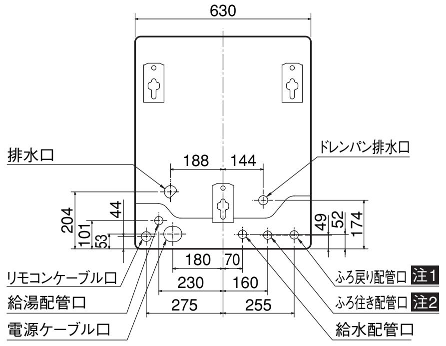
SRT-J46W3、SRT-J46WD3、SRT-J37W3、SRT-J37WD3
SRT-J46F3、SRT-J46FH3、SRT-J37F3、SRT-J37FH3
SRT-J46C3、SRT-J46CD3、SRT-J37C3、SRT-J37CD3
SRT-J46CH3、SRT-J37CH3



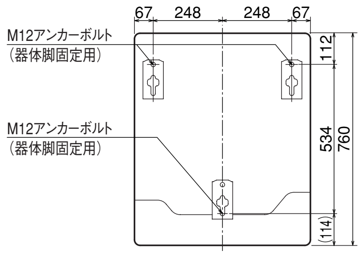
上面図



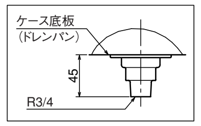
正面図



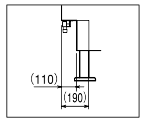
配管位置上面透視図



アンカーボルト位置上面透視図



排水口寸法



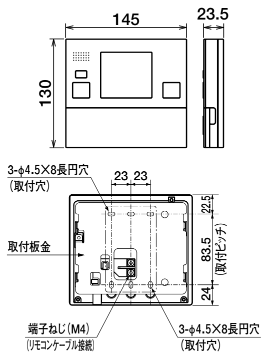
側面図（けこみ部）

注1 注2
ふろ戻り配管口、ふろ往き配管口は追いだきフルオート、フルオート機種の名称です。エコオート機種では、ふろ戻り配管口がふろ配管口となります。

●リモコン

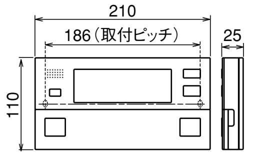
スマートリモコン

- 台所リモコン
（RMC-KD3-W／N／A、RMC-K3）
- サブリモコン
（RMC-KZ3）



※取付板金を使用

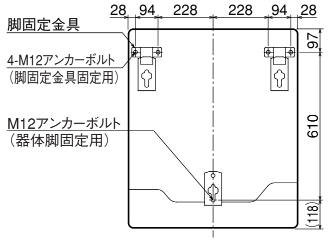
- 浴室リモコン
（RMC-BD3-W／N／A、RMC-B3）



温水器の後脚がアンカーボルトで固定できない場合

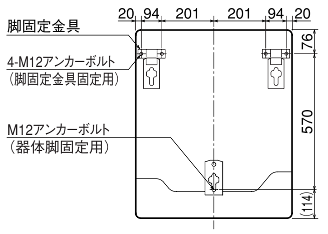
脚固定金具（当社別売部品 GZ-6D）を使用してください。

- 550L、460Lローボディ



脚固定金具使用時
アンカーボルト位置
上面透視図

- 460L、370L



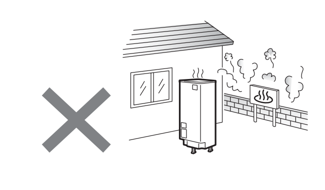
脚固定金具使用時
アンカーボルト位置
上面透視図

2.据付工事編

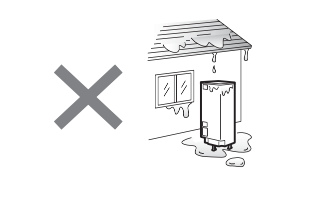
2-1.据付場所の選定、据付制約

- ●お客さまと相談し、機器の据付場所をきめてください。
- ●外気温がマイナス10℃を下回る地域では、温水器を屋内に据え付けてください。
屋内に据え付ける場合は、形名に「D」の付くタイプ（エマージェンシーストップ機能付き）を推奨します。
- ●配管による放熱ロスを少なくするため、できるだけ給湯場所に近い所へ据え付けてください。
- ●以下の場所では使用できません。

● 温泉地帯など特殊な場所

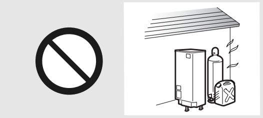


● 水たまりができて、水につかるような所



⚠警告

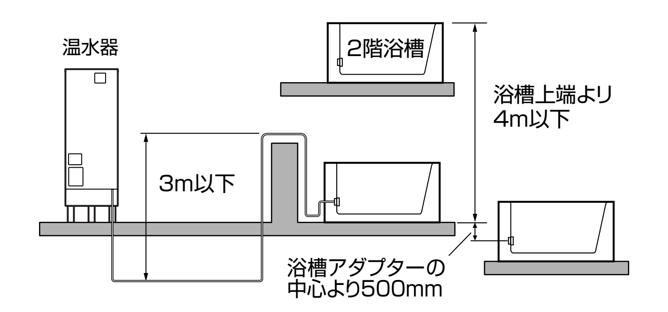
ガス類や引火物の近くには据え付けない
（火災・発火の原因）



- ●「屋内／屋外兼用」機種を屋内に据え付ける場合は、屋外に据え付ける場合の注意に加え、特に下記を厳守してください。
  - 結露防止のため、通気口を設け密閉室にしないでください。
  - 床面の防水・排水工事を確実に行ってください。
  - 浴室など湿気の多い所には据え付けないでください。
  - メーターボックス内に設置する場合は、扉の上下それぞれに通気口（開口面積100cm²程度）を確保し、必要に応じて換気扇を設けてください。
- ●積雪地域で屋外に据え付ける場合は、小屋がけをして雪がかかるのを防いでください。
天板が変形するおそれがあります。
- ●保守、点検に必要なスペースを確保してください。メンテナンススペースとして、温水器の前方は600mm以上必要です。また、本体が故障したときや交換時の搬入、搬出ができるように側面のスペースも考慮してください。
- ●建築物の可燃物等からの離隔距離
この温水器は消防庁告示第一号（対象火気設備等及び火気器具等の離隔距離に関する基準）に適合しています。（消防法基準適合組込形）
建築物の可燃物等からの離隔距離は右表に掲げる値以上の距離を保ってください。

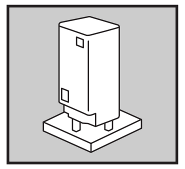
可燃物からの離隔距離（cm）			
上方	側方	前方	後方
0	0	0	0

- ●温水器と浴槽間の据付制約



配管全長　:15m以下
曲がり箇所 :10カ所以下
鳥居高低差 :3m以下、1カ所まで
（2階の場合は不可）

※階下及び3階以上のふろ配管はできません。

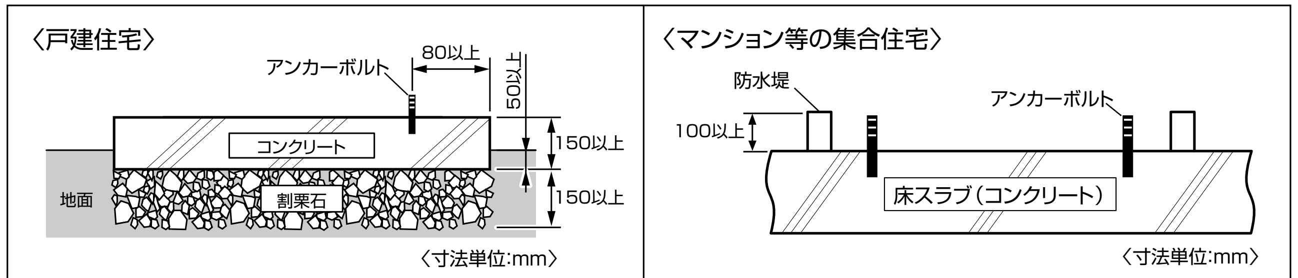


2-2.温水器の据付

基礎工事

●満水時の質量（31ページ参照）に十分耐える基礎工事をしてください。
●床面は防水・排水工事を行なってください。
●基礎工事は下図に従って行なってください。

- コンクリート圧縮強度:18MPa以上
- アンカーボルト引き抜き力:12kN以上



- 屋内に据え付ける場合は、必ず適切な防水・排水工事を行なってください。防水堤（高さ100mm以上）を推奨します。

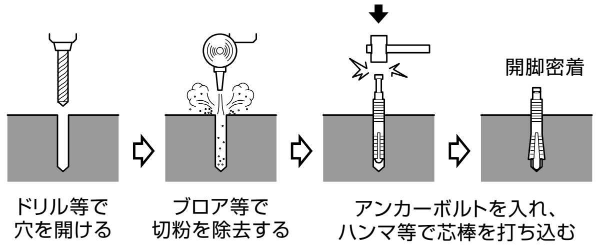
⚠注意
- 床面の防水・排水処理工事をする（大きな被害の原因）

【お願い】
- 原則として、屋外に据え付けてください。（ただし、Dタイプは屋内設置可能です。）
- アンカーボルトの下穴は下表を参照してください。めねじアンカーボルトは使用しないでください。

アンカーボルト（脚部固定用　形名:GZ-B1D）　〈寸法単位:mm〉

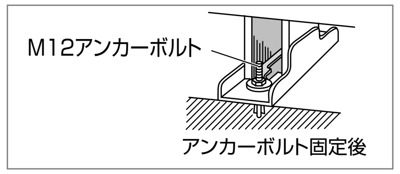
直径	全長	ねじの長さ	ドリル径	埋込み深さ
12	100	40	12.7	80

芯棒打込み式おねじアンカーボルトの施工例



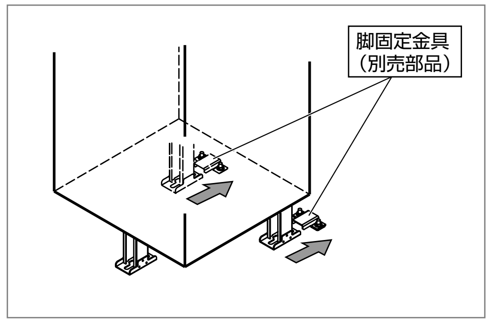
脚部固定工事

●地震時の転倒防止のため、アンカーボルトを使用して基礎の上に固定してください。3カ所必ず固定してください。
●必ず水平に据え付けてください。
●後脚がアンカーボルトで固定できない場合は、脚固定金具(当社別売部品 形名:GZ-6D)を使用してください。



⚠注意
- 脚部をアンカーボルトで固定する（けがの原因）

後脚がアンカーボルトで固定できない場合



1 脚固定金具に座金（脚固定金具に同梱）をのせ、M12アンカーボルトで固定する（4カ所）

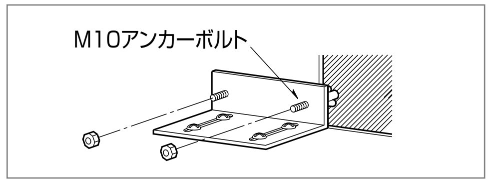
2 本体を矢印の方向に移動させ、後脚を脚固定金具の爪にはめ込む

3 前脚にT型座金（脚固定金具に同梱）を入れ、M12アンカーボルトで固定する

【お願い】● 詳しくは、脚固定金具に同梱の工事説明書をご覧ください。

上部振れ止め工事

●2階以上に据付ける場合は、上部振れ止め金具で本体を固定してください。



1 温水器の上面に取り付けてある上部振れ止め金具を外し、上向きに取り付ける

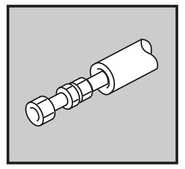
2 上部振れ止め金具を壁に固定する

【お願い】
- 引張荷重が4.9kN以上に耐える壁、または桟を設けてください。
- アンカーボルトは引き抜き力が2.45kN以上になる施工をしてください。
- アンカーボルトの下穴は下表を参照してください。

アンカーボルト（上部固定用 形名:GZ-B2D）　〈寸法単位:mm〉

直径	全長	ねじの長さ	ドリル径	埋込み深さ
10	60	25	10.5	40

- 側面に取付ける場合、使用しないねじ穴は雨水が入らないように付属のシールでふさいでください。（シールは上部振れ止め金具に付いています。）



3-1.配管工事の前に（配管制約）

●上水道直結の配管工事は、当該水道局（水道事業管理者）の認定水道工事業者が指定された配管材料を使用して施工してください。

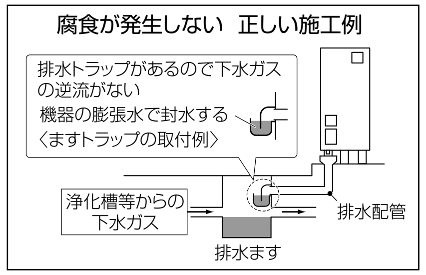
●必ず水道法に定められた飲料水の水質基準に適合した水道水を使用してください。ただし、水質によっては、タンク・減圧弁・逃し弁等の寿命が通常より短くなることがあります。特に温泉水・地下水・井戸水のご使用は機器をご使用いただく期間の水質が、常に水道法の定める水質基準内である担保が取れないため、使用しないでください。（不具合が発生した場合、無償保証できません。）

●水源水圧が給水時に200kPa以上確保できる場所で使用してください。（750kPaを越える地域は給水一時側に減圧弁を設けてください。）

●排水配管には必ず排水トラップを設置してください。排水トラップがないと浄化槽などから下水ガスが逆流して、機器が著しく腐食し、故障します。〈右図〉

●各配管は、つぶれや折れのないように施工してください。また、各配管に異物等が混入しないようご注意ください。

●架橋ポリエチレン管、被覆材は光が当たると劣化しますので、屋外配管部はシーリングテープを使用し、遮光してください。（架橋ポリエチレン管使用時）



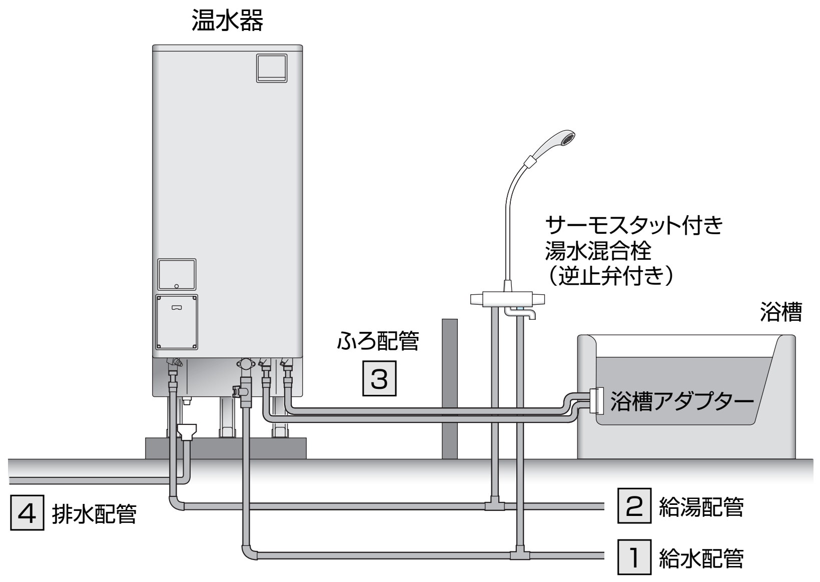
（1）各配管の制約及び施工上の注意

配管名	耐熱温度	推奨配管種類	配管サイズ	継手呼び径 製品	継手呼び径 配管	長さ・曲がり	高低差	鳥居	保温材厚さ	施工上の注意	樹脂管使用時施工要領
1 給水配管	特になし	銅管	20A	R3/4	3/4x 20A	————	13ページ参照	———	10mm以上推奨	●故障や点検など排水するときに必要な給水配管専用止水栓を取り付けてください。必ずお客さまが操作しやすい場所に取り付けてください。	→14ページ
		架橋ポリエチレン管	16A		3/4x16A						
2 給湯配管	90℃以上	銅管	20A	R3/4	3/4x 20A	————	13ページ参照	———	10mm以上推奨	●階下給湯時は、温水器天面から蛇口までを5m以内としてください。 ●給湯配管は、管の膨張収縮がありますので、コンクリート壁やスラブを貫通するときはスリーブを使用し、埋設配管するときは管を固定しないでください。 ●配管部材（配管接続部パッキン等）は耐熱・耐食性のあるものを使用してください。	→14ページ
		架橋ポリエチレン管	16A		3/4x16A						
3 ふろ配管	80℃以上	銅管	15A	R1/2	1/2x 15A	15m10曲がり	7ページ参照	3m以下（1カ所まで）	10mm以上推奨	●階下へのふろ配管はできません。 ●浴槽アダプターは当社別売部品を使用してください。（浴槽アダプターは無極性です。） ●配管接続部にフレキ管を使用する場合は、合計で1m以内としてください。 ●配管部材（配管接続部パッキン等）は耐熱・耐食性のあるものを使用してください。	→16ページ
		架橋ポリエチレン管	13A		1/2x 13A						
4 排水配管	90℃以上	HT管	φ50以上	(R3/4)	———	————	下り勾配	————		●排水配管には必ず、口径φ80以上の排水ホッパーおよび排水トラップを設置してください。 ●わき上げ中に排水口から少量のお湯（水）が出ます。 ●排水時には最大毎分40L程度排水されますので、十分排水できる排水工事をしてください。	−

R:テーパーねじ

（2）標準配管例

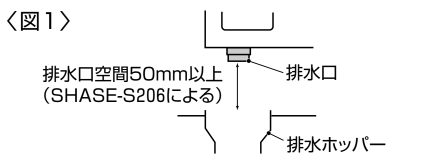
追いだきフルオート、フルオートで説明しています。（屋外設置）
エコオートの場合、ふろ配管は1本です。



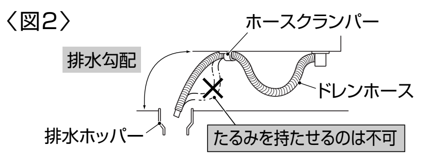
排水口付近拡大図

● 排水口と排水ホッパーの中心位置を確実に合わせます。（中心位置がずれていると、排水時に水が飛び散って床面を濡らすことがあります。）排水口と排水ホッパーの位置がずれている場合は、配管により最小距離で中心を合わせてください。距離が長いと排水時間が長くなったり、途中で凍結して排水できなくなることがあります。〈図1〉
● ドレンホースは温水器の底面より上にならないようにして排水ホッパーへ導いてください。また、先端は水に浸からないようにご注意ください。（排水性能が著しく低下します。）
● ドレンホースは切断しないでください。必要に応じて、ドレンホースが排水ホッパーから外れないよう固定してください。
● 温水器の底面にドレンホース用のクランパーが付いています。ホースクランパーから排水ホッパーまでは、排水勾配を設けてください。（Dタイプのみ）〈図2〉

〈図1〉



〈図2〉



【お願い】
● 逆止弁付湯水混合栓を使用してください。使用する蛇口によっては、出湯量が少ない場合があります。特にシャワーはやけど防止のため、サーモスタット付湯水混合栓を使用してください。（サーモスタット付湯水混合栓を使用する場合、構造により出湯量が極端に少ない場合があります。ご使用になるときは、最低必要圧力、シャワーヘッドなどの仕様を確認して選定してください。手元ストップシャワー、マッサージシャワー等のシャワーヘッドでは出湯量が少なくなります。）
● シングルレバー式の湯水混合栓を使用する際、水撃（ウォーターハンマー）現象が発生する場合には、水撃防止装置取付などの処置をお願いします。
● 減圧弁1次側の水圧検査は、750kPa以下で行なってください。
● 配管材料をろう付けした場合は、ろう付け個所付近に飛散したフラックスを濡れた布できれいに拭き取ってください。
● 配管接合部のシール材は耐熱・耐食性のある材料を使用してください。
● 配管材料はねじ切り・切断などの際、油やゴミが付着しますから、加工後は必ず中性洗剤で洗浄してから配管してください。また、キズやバリがないように面取りを行ってください。
● シールテープを使用する場合は、ねじ部よりはみ出さないようにしてください。
● 耐熱塩ビ管（HT管など）を接着接続した場合は、接着剤がストレーナー等へ付着しないよう硬化後に通水してください。使用する接着剤の種類、使用量、養生時間などは接着剤メーカーの説明書に従ってください。接着剤がタンクに入り、湯から悪臭が発生したり、流量が低下したりすることがあります。

3-2.凍結防止・保温工事

凍結防止工事

●保温工事がしてあっても周囲温度が0℃以下になると配管は凍結するため、機器内の部品や配管が破損し、水漏れとなる場合があります。下記にて推奨の凍結防止対策を行なってください。

●配管工事終了後、配管接続部での水漏れの有無を点検してから、凍結防止工事をしてください。

⚠注意

- 凍結防止対策を行う（配管破損による水漏れ、やけどの原因）

（1）凍結防止ヒーター（市販品）を外部配管に設置する方法

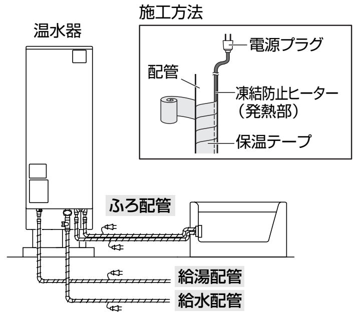
凍結防止ヒーターは、外気温を検出するタイプでは温度誤検出のおそれがありますので、配管の温度を直接検出するタイプのものを使用してください。また、配管用の自動温度調節器（サーモスタット）のあるものを使用する場合は、確実に配管に取り付けてください。

推奨品：東京特殊電線 NFオートヒーター（自己温度制御タイプ）
樹脂管使用時は樹脂管の材質を確認して適切な仕様のものをご使用ください。

●凍結防止ヒーターは凍結のおそれがある配管すべてに施工します。
●各配管の接続口まで設置してください。
●凍結防止ヒーターは何本も使用しますのでコンセントを適当な位置に設けてください。

図に示す配管（給水配管、給湯配管、ふろ配管）は必ず施工してください。

注.追いだきフルオート、フルオートで説明しています。



⚠注意

- 凍結防止ヒーターの施工についての詳細は、凍結防止ヒーターに同梱の説明書にしたがう（火災を防ぐ）

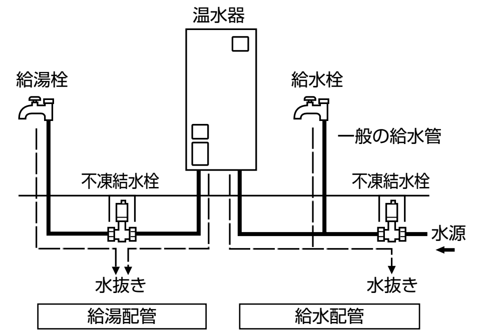
【お願い】

- 長期間不在等で電源を切るときのために凍結防止ヒーターを設置してください。
- 凍結防止ヒーターは適切な長さのものをご使用ください。
- **凍結防止ヒーターの電源コードや発熱体をねじったり、折り曲げたり、重ねて巻いたりしないでください。**
- 凍結防止ヒーターの取扱方法、操作方法をお客さまに十分説明してください。

（2）不凍結水栓による方法

給水配管、給湯配管の凍結防止を不凍結水栓で行う場合は、右図に従ってください。

当社推奨配管システム（不凍結水栓による方法）



（3）施工後すぐに使用しない場合

施工後すぐに使用しない等、機器の電源を切って保管する場合は必ず機器及び配管の水抜きを行なってください。
（27ページ参照）

保温工事

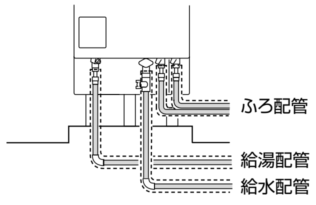
●配管工事終了後、配管接続部での水漏れの有無を点検し、凍結防止工事を行なってから、保温工事をしてください。

●給水、給湯配管およびふろ配管は、必ず耐熱保温材による保温工事を行なってください。保温工事が正しく行われていないと、配管の途中で放熱し、正常にわき上げや湯はりができません。また、冬期には凍結のおそれがあります。

耐熱保温材の厚み　：10mm以上で各水道事業者指定の厚み

●保温工事をした部分は、保温材がぬれないようテープなどで必ず防水処置をしてください。

図中の破線（┈┈）は耐熱保温材を示しています。



注.追いだきフルオート、フルオートで説明しています。

3-3.階上（2、3階）給湯・階下給湯

階上（2、3階）給湯（高圧力型のみ）

●2、3階へ給湯配管する場合は、図のように行ってください。

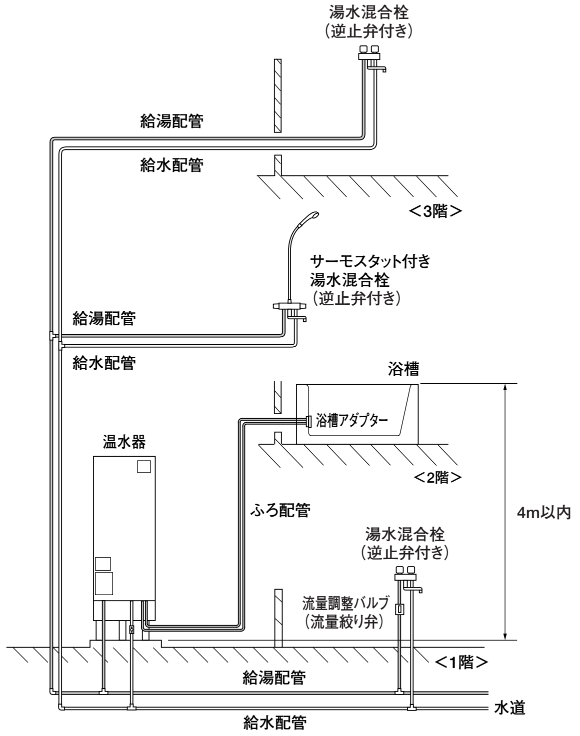
●温水器設置階の上の階へ給湯するときは、温水器設置階の給湯配管に市販の流量調整バルブ（流量が調整しにくい場合は流量絞り弁）を取り付け、階高さによる流量バランスを調整してください。

●3階ではシャワーは使用できません。（手洗い程度であれば使用できます。洗髪洗面化粧台は使用できません。）

●下の階で給湯しているときは、上の階での出湯が弱くなります。

【お願い】

- 標準圧力型で2、3階給湯するときはお問い合わせください。



階下給湯

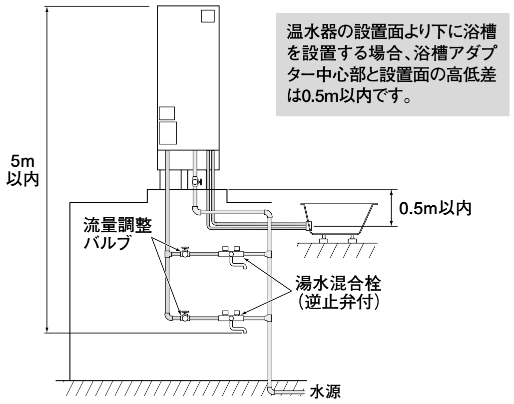
●給湯配管は階下5mまで可能です。

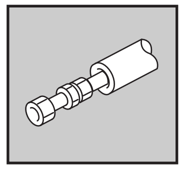
●給湯栓出口と温水器天面の高低差は5m以内にしてください。5mを超えると空気の混ざったお湯が出て、飛び散ることがあり危険です。

●給湯配管の途中に流量調節バルブ（市販品）を取り付けてください。

●空気の混ざったお湯が出る場合は、温水器への給水量が不足しています。流量調節バルブ（市販品）で、給水と給湯する量のバランスがよくなるよう調節してください。

●階下への湯はりはできません。





3-4.樹脂管使用時の施工要領

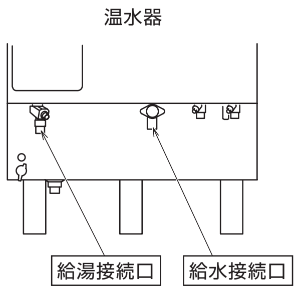
給水・給湯配管工事

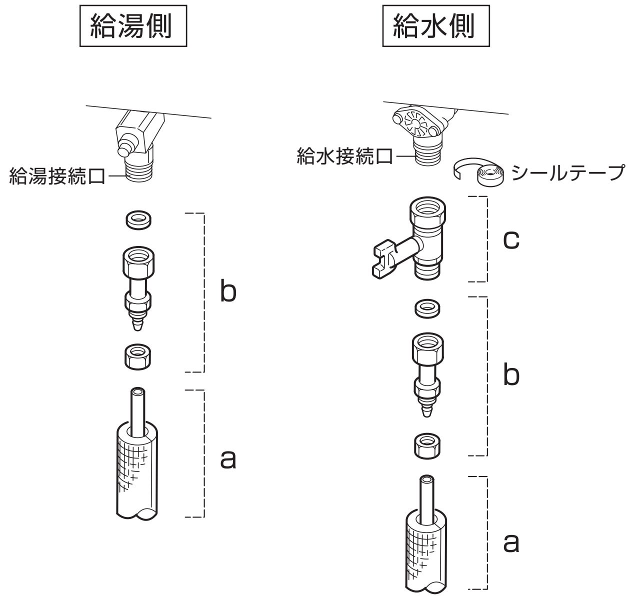
（1）必要部材一覧、接続概要図

■必要部材一覧

番号	部品名	配管サイズ・継手呼び径	推奨品形名
a	被覆架橋ポリエチレン管	16A	三菱樹脂（株）製 〈給水配管用〉 HC-16HON10B（25m）、HC-16HON10B-50M（50m） 〈給湯配管用〉 HC-16HON10P（25m）、HC-16HON10P-50M（50m）
b	ユニオンアダプタ・SIタイプ	3/4x 16A	三菱樹脂（株）製　XL-20-16F
c	止水栓	3/4x 16A	三菱樹脂（株）製　S6-3/4
-	シーリングテープ	−	当社別売部品　GT-S40A

■接続概要図





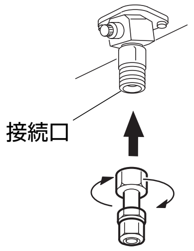
- 架橋ポリエチレン管用パイプカッターを使用して架橋ポリエチレン管を必要な長さに切断しておきます。
- 架橋ポリエチレン管、被覆材は光が当たると劣化しますので、屋外配管部はシーリングテープを使用し、遮光してください。
- 凍結防止ヒーターは、樹脂管用のものをご使用ください。

（2）施工要領

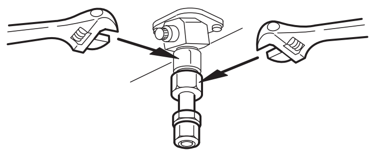
給湯側

〈アダプタの接続〉

1 接続部のパッキンを確認した後、架橋ポリエチレン配管接続部のナットを温水器の給湯接続口に手で軽く締める



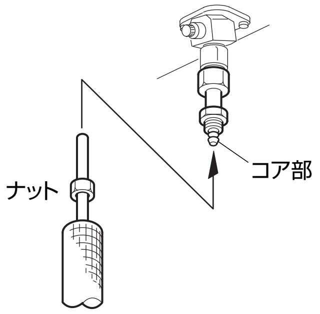
2 スパナを使って、しっかりと締めこむ



施工時の注意事項等

〈架橋ポリエチレン管の接続〉

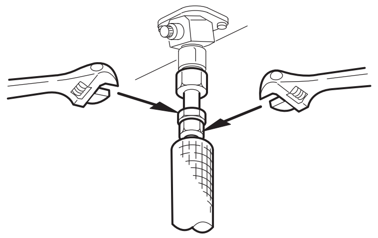
1 ナットを外し、架橋ポリエチレン管に通し、管をコア部に挿入する



施工時の注意事項等

- 管の根元まで差し込んでください。

2 架橋ポリエチレン管の被覆を引き上げ、スパナを使ってしっかりと締めこむ

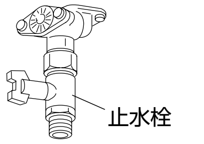


- 架橋ポリエチレン管、被覆材は光が当たると劣化しますので、屋外配管部はシーリングテープを使用し、遮光してください。また、架橋ポリエチレン管露出部は、確実に保温を行なってください。

給水側

〈止水栓及び架橋ポリエチレン管の接続〉

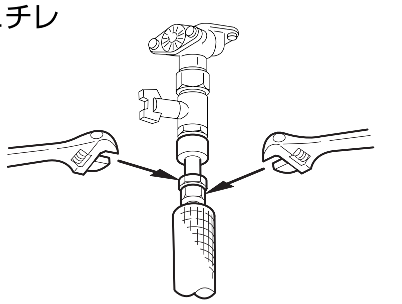
1 給水接続口にシールテープを巻いてから、止水栓を取り付ける



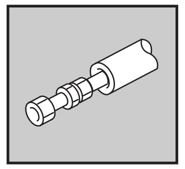
施工時の注意事項等

- 必ず、給水接続口にシールテープを巻いてください。

2 給湯配管と同様に、架橋ポリエチレン管を接続する



- 架橋ポリエチレン管、被覆材は光が当たると劣化しますので、屋外配管部はシーリングテープを使用し、遮光してください。また、架橋ポリエチレン管露出部は、確実に保温を行なってください。



3-4.樹脂管使用時の施工要領（つづき）

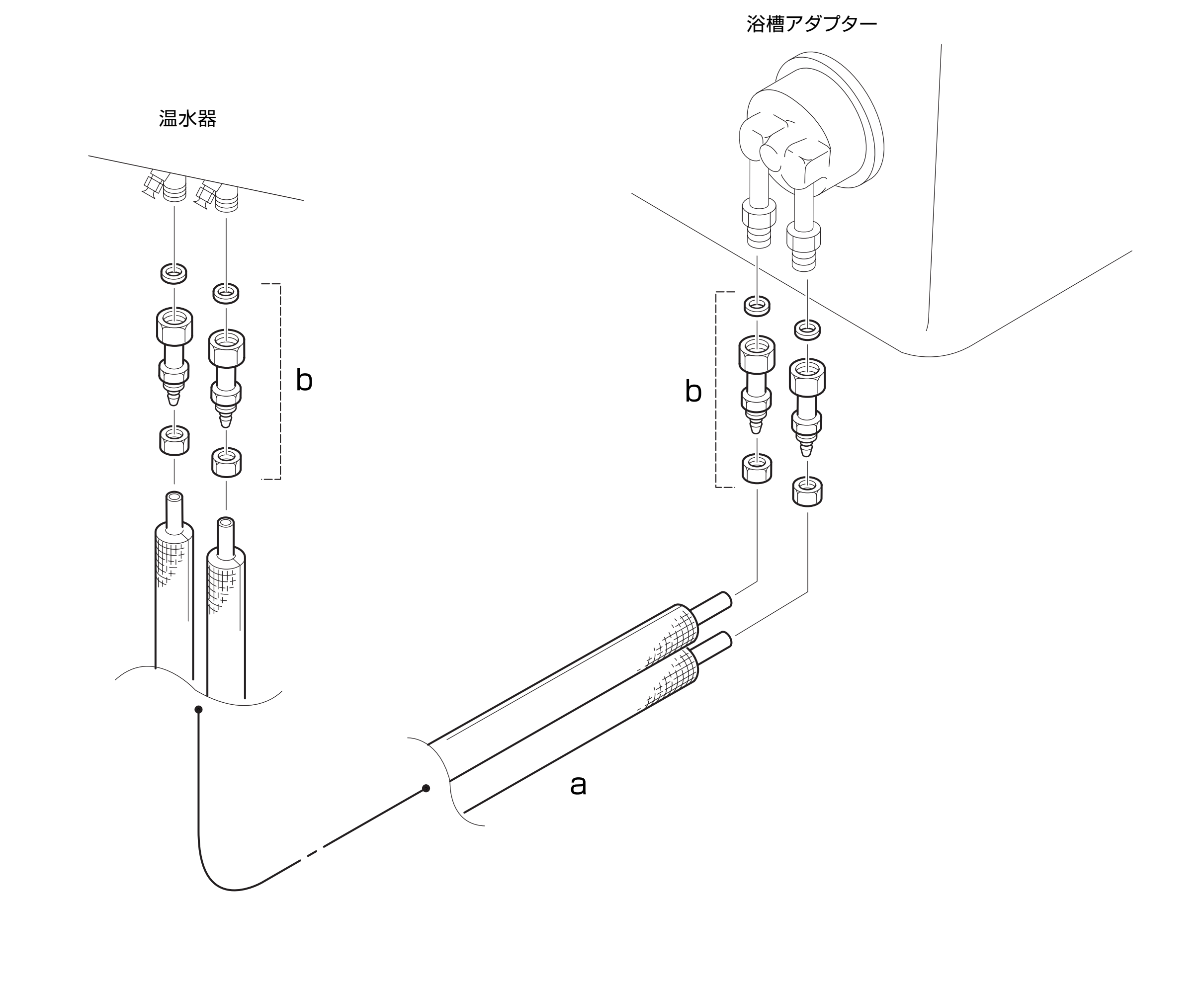
ふろ配管工事

（1）必要部材一覧、接続概要図

■必要部材一覧

番号	部品名	配管サイズ・継手呼び径	推奨品
a	被覆架橋ポリエチレン管（ペア管）	13A	三菱樹脂（株）製　HC-13HON10ペア
b	ユニオンアダプタ・SIタイプ	1/2x 13A	三菱樹脂（株）製　XL-15-13F
-	シーリングテープ	–	当社別売部品　GT-S40A

■接続概要図



※追いだきフルオート、フルオートで説明しています。エコオートの場合、ふろ配管は1本です。

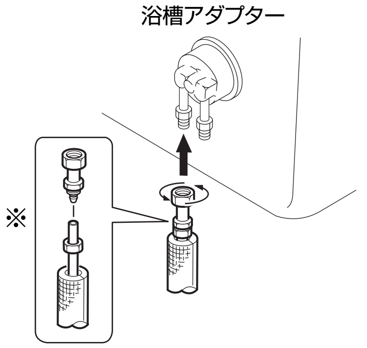
【お願い】● 浴槽アダプターは、必ず当社別売部品を使用してください。取付方法は、浴槽アダプターに同梱の工事説明書をご覧ください。（浴槽アダプターは無極性です。）

● 配管内に異物（石等）が入らない様、注意してください。故障の原因になります。（異物が入った場合は洗い流す等の処理を実施してください。）

（2）施工要領

〈浴槽アダプターへの接続〉

1 接続部のパッキンを確認した後、架橋ポリエチレン配管接続部のナットを浴槽アダプターの接続口に手で軽く締める

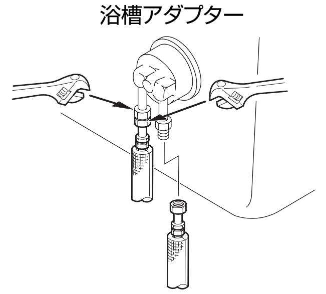


施工時の注意事項等

※架橋ポリエチレン管とユニオンアダプタの接続は、15ページ参照。

2 スパナを使って、しっかりと締めこむ

3 同様に、もう一方の接続口にも架橋ポリエチレン配管を接続する

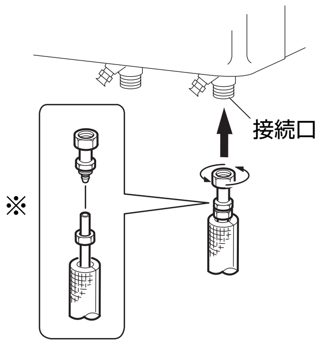


● 架橋ポリエチレン管、被覆材は光が当たると劣化しますので、屋外配管部はシーリングテープを使用し、遮光してください。また、架橋ポリエチレン管露出部は、確実に保温を行なってください。

〈温水器への接続〉

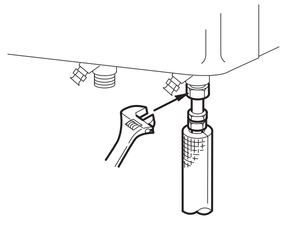
施工時の注意事項等

1 接続部のパッキンを確認した後、架橋ポリエチレン配管接続部のナットを温水器のふろ接続口に手で軽く締める

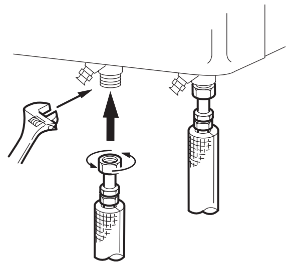


※架橋ポリエチレン管とユニオンアダプタの接続は、15ページ参照。

2 架橋ポリエチレン管の被覆を引き上げ、スパナを使って、しっかりと締めこむ



3 同様に、もう一方の接続口にも架橋ポリエチレン配管を接続する



● 架橋ポリエチレン管、被覆材は光が当たると劣化しますので、屋外配管部はシーリングテープを使用し、遮光してください。また、架橋ポリエチレン管露出部は、確実に保温を行なってください。

4-1.電気工事

●電気工事は、「電気設備に関する技術基準」および「内線規程」に従って電気工事士が施工し、必ず、専用回路を使用してください。

●電源ブレーカー（配線用遮断器）の定格および電線の太さは内線規程に定められたものを使用してください。

●第2深夜電力（5時間通電）では使用できません。

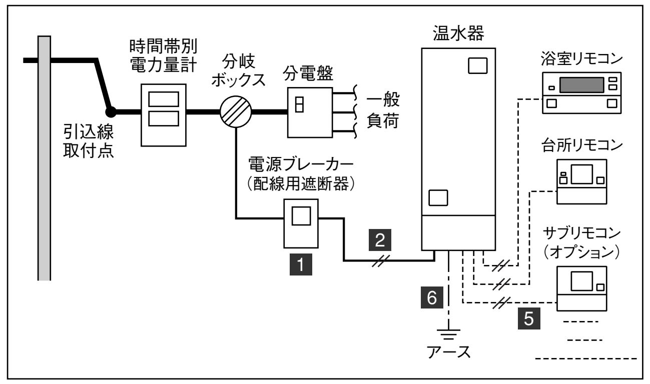
●必ずタンクを満水にしたことを確認してから電源を入れてください。

●万一の感電事故防止のため、「電気設備に関する技術基準」および「内線規程」に従って電気工事士がD種接地工事を行ってください。

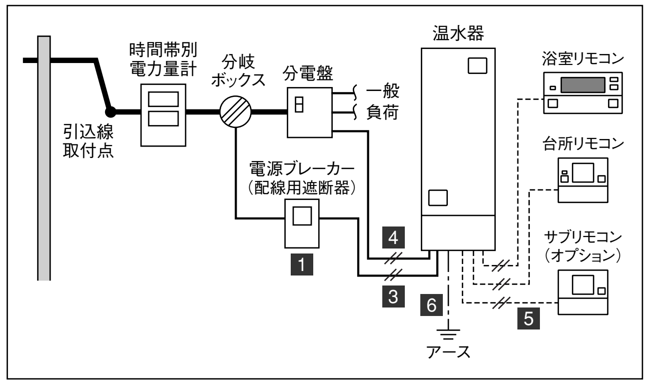
電気系統接続概要図

● 「時間帯別電灯で使用する場合［B］」および「深夜電力で使用する場合［C］」で使用される場合は、制御用電源として昼間電力の配線工事が必要となります。
● 引込線取付点と分岐ボックス間のケーブルの太さは、一般負荷と温水器を見込んだサイズにしてください。
● 電気温水器用電源ブレーカー組込みの分電盤の場合は、分電盤より直接配線してください。
● 時間帯別電灯で使用する場合［A］と［B］のどちらの方法で施工するかは、所轄の電力会社の指導にしたがってください。

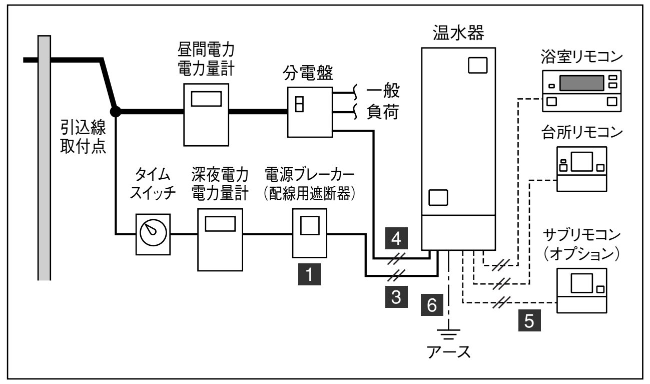
■時間帯別電灯で使用する場合［A］



■時間帯別電灯で使用する場合［B］



■深夜電力で使用する場合［C］



電源線（単相3線）　------ リモコン線
電源線（単相2線 200V）　-・-・- アース線

必要部材

番号は上図に対応しています。

番号	名　称	仕　様	備　考
1	電源ブレーカー（配線用遮断器）	単相200V、ブレーカー定格は19ページ参照	――――――
2	電源線（時間帯別電灯用）	ケーブルの太さは19ページ参照	2芯式、電源ブレーカー～温水器
3	わき上げ用電源線	ケーブルの太さは19ページ参照	2芯式、電源ブレーカー～温水器
4	制御用電源線	ケーブルの太さは19ページ参照	2芯式、分電盤～温水器
5	リモコン線	0.3～1.65mm^2、抵抗値67.6Ω/km以下	2芯式、リモコン全回路、最長50m以内
6	アース線	ϕ2.0mm（3.5mm^2）、IV線	――――――

電源ブレーカー定格とケーブルの太さ・種類

■時間帯別電灯で使用する場合［A］

機種	形　名	定格電圧	定格消費電力	電源ブレーカー定格	ケーブルの太さ	種類
追いだき フルオート	SRT-J37W3 SRT-J37WD3	単相200V	4.6kW	40A	ϕ3.2mm（8mm^2）	VV
	SRT-J46W3 SRT-J46WD3 SRT-J46WDM3	単相200V	5.6kW	40A	ϕ3.2mm（8mm^2）	VV
	SRT-J55W3 SRT-J55WD3	単相200V	6.6kW	50A	14mm^2	VV
フルオート	SRT-J37F3 SRT-J37FH3	単相200V	5.6kW	40A	ϕ3.2mm（8mm^2）	VV
	SRT-J46F3 SRT-J46FH3	単相200V	6.6kW	50A	14mm^2	VV
エコオート	SRT-J37C3 SRT-J37CD3 SRT-J37CH3	単相200V	4.5kW	30A	ϕ2.6mm（5.5mm^2）	VV
	SRT-J46C3 SRT-J46CD3 SRT-J46CDM3 SRT-J46CH3	単相200V	5.5kW	40A	ϕ3.2mm（8mm^2）	VV
	SRT-J55C3 SRT-J55CD3	単相200V	6.5kW	50A	14mm^2	VV

【お願い】●CV線を使用する場合は、ケーブルの太さ等内線規定を参照ください。

■時間帯別電灯で使用する場合［B］
■深夜電力で使用する場合［C］

機種	形　名		定格電圧	定格消費電力	電源ブレーカー定格	ケーブルの太さ	種類
追いだき フルオート	SRT-J37W3 SRT-J37WD3	わき上げ用	単相200V	4.4kW	30A	ϕ2.6mm（5.5mm^2）	VV
		制御用	単相200V	0.2kW	15A・20A	ϕ1.6mm	VV
	SRT-J46W3 SRT-J46WD3 SRT-J46WDM3	わき上げ用	単相200V	5.4kW	40A	ϕ3.2mm（8mm^2）	VV
		制御用	単相200V	0.2kW	15A・20A	ϕ1.6mm	VV
	SRT-J55W3 SRT-J55WD3	わき上げ用	単相200V	6.4kW	50A	14mm^2	VV
		制御用	単相200V	0.2kW	15A・20A	ϕ1.6mm	VV
フルオート	SRT-J37F3 SRT-J37FH3	わき上げ用	単相200V	4.4kW	30A	ϕ2.6mm（5.5mm^2）	VV
		制御用	単相200V	1.2kW	15A・20A	ϕ1.6mm	VV
	SRT-J46F3 SRT-J46FH3	わき上げ用	単相200V	5.4kW	40A	ϕ3.2mm（8mm^2）	VV
		制御用	単相200V	1.2kW	15A・20A	ϕ1.6mm	VV
エコオート	SRT-J37C3 SRT-J37CD3 SRT-J37CH3	わき上げ用	単相200V	4.4kW	30A	ϕ2.6mm（5.5mm^2）	VV
		制御用	単相200V	68W	15A・20A	ϕ1.6mm	VV
	SRT-J46C3 SRT-J46CD3 SRT-J46CDM3 SRT-J46CH3	わき上げ用	単相200V	5.4kW	40A	ϕ3.2mm（8mm^2）	VV
		制御用	単相200V	68W	15A・20A	ϕ1.6mm	VV
	SRT-J55C3 SRT-J55CD3	わき上げ用	単相200V	6.4kW	50A	14mm^2	VV
		制御用	単相200V	68W	15A・20A	ϕ1.6mm	VV

【お願い】●CV線を使用する場合は、ケーブルの太さ等内線規定を参照ください。

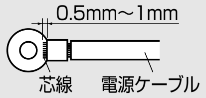
4-2.温水器への配線工事

●工場出荷時の内部配線は、**「時間帯別電灯で使用する場合［A］」**に対応しています。**「時間帯別電灯で使用する場合［B］」**や**「深夜電力で使用する場合［C］」**の場合は、内部配線の変更が必要です。

⚠警告

電源線は確実に取り付ける（火災・発火の原因）

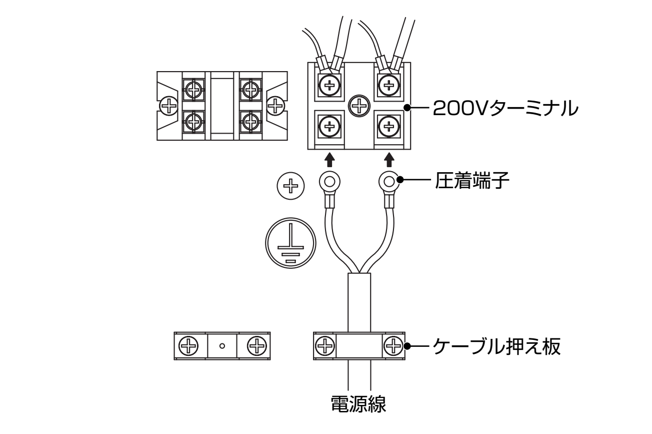
- 丸端子の圧着は図に従ってください。
  丸端子に適合した圧着工具で正しく圧着してください。



施工時の注意事項等

- 配線終了後、工事用窓は元どおりに取り付けてください。
- ターミナルへの接続は付属の圧着端子を使用してください。
- 電源線にVVF（平形）を使用する場合は、VVF線用のクランプを現地調達して、交換してください。
- 電源線を固定するときは、端子部に直接外力が加わらないように固定してください。

時間帯別電灯で使用する場合［A］



1 工事用窓を外す

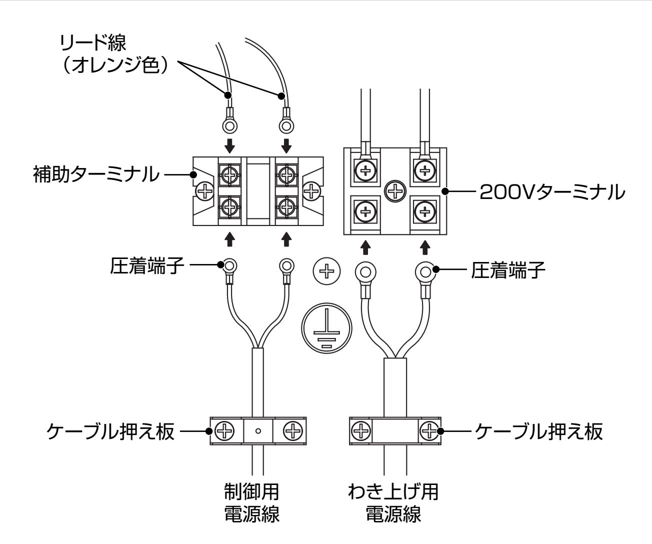
2 電源線を電源ケーブル口から通し、200Vターミナルに接続する
電源線 締付基準トルク:3.2～3.6N·m

3 電源線をケーブル押え板で固定する

4 同梱のパテで電源ケーブル口をふさぐ

時間帯別電灯で使用する場合［B］、深夜電力で使用する場合［C］

追いだきフルオート及びフルオートタイプの370L機種は、200Vターミナルに付属している圧着端子を1サイズ小さいものに変更してください。



1 工事用窓を外す

2 200Vターミナルに接続してあるリード線（オレンジ色）を外し、補助ターミナルに接続する

3 わき上げ用電源線を電源ケーブル口から通し、200Vターミナルに接続する
電源線 締付基準トルク:3.2～3.6N·m

4 制御用電源線を電源ケーブル口から通し、補助ターミナルに接続する
電源線 締付基準トルク:3.2～3.6N·m

5 電源線をそれぞれケーブル押え板で固定する

6 同梱のパテで電源ケーブル口をふさぐ

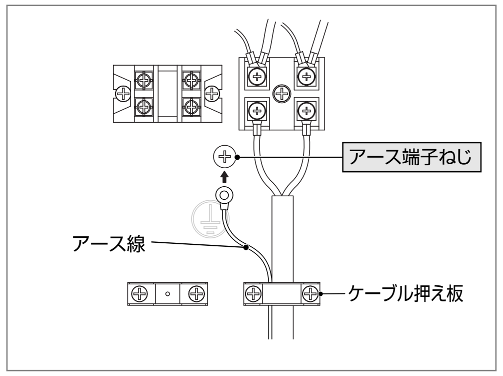
4-3.アース（接地）工事

●万一の感電事故防止のため、「電気設備に関する技術基準」および「内線規程」に従って電気工事士がD種接地工事を行ってください。
●水道管、ガス管への接地、および他の機器の接地との共用はできません。
（集合住宅等アース棒による接地工事が困難な場合は、D種接地に従ってください。）
●避雷針の接地と2m以上離してください。

⚠警告

- 必ずアース工事をする（感電の原因）

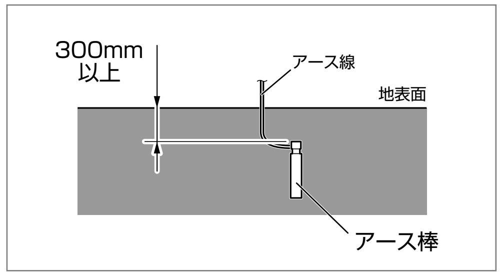
接続図



1 アース線（市販品）に丸型端子（市販品）を圧着する

2 温水器下部の電源ケーブル口から、アース線を通し、アース端子ねじ（⏚マーク）へ接続する
締付基準トルク:0.7～1.3N·m

アース棒の取り付け



1 アース線をアース棒に確実に接続する

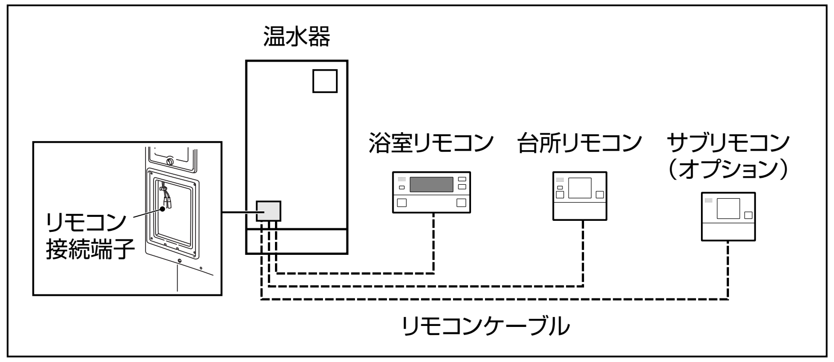
2 アース棒を地中300mm以上の深さに打ち込む

3 接地抵抗値の確認をする

4-4.リモコン工事

●リモコン工事は、必ず電源ブレーカーを「切」にしてから行なってください。
●リモコンは、当社別売部品をご使用ください。
●リモコンケーブルは、当社別売部品を設置条件に合わせて切断してご使用ください。
［リモコンケーブル形名:LM-620またはLM-650（2芯、線径:0.3mm^2）］
●サブリモコンの単一使用はできません。
●リモコンの取付方法は、リモコンに同梱の説明書をご覧ください。

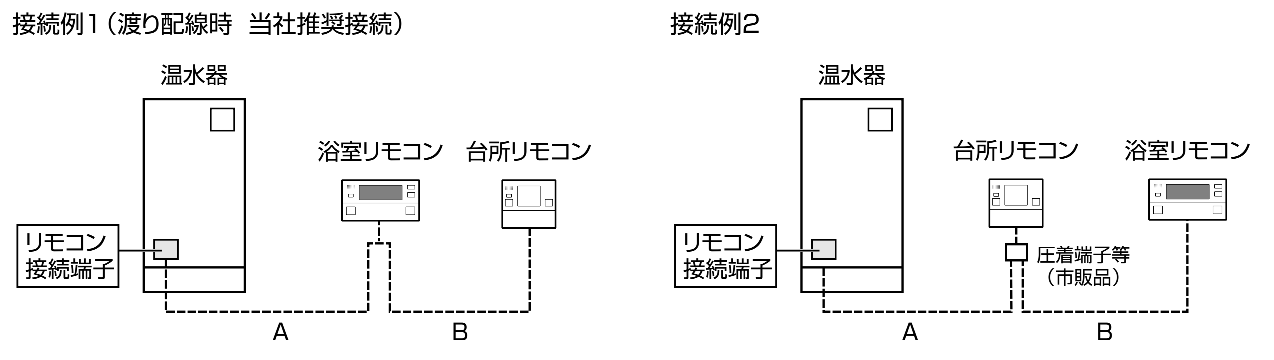
リモコン接続概要図



※本体1台に複数の浴室リモコン及び複数の台所リモコンは、接続できません。
また、サブリモコンは1台のみ接続可能です。

渡り配線を行う場合

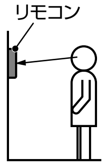
リモコン接続時に渡り配線を行う場合は、下記に従ってください。



※必ず、温水器から各リモコンまでの配線長（A+B）を50m以内としてください。
※既設のリモコンケーブルを使用する場合、当社別売リモコンケーブル相当品（2芯式、0.3〜1.65mm^2、67.6Ω/km以下）としてください。ただし、浴室リモコンの接続端子を使用して共カシメを行う場合は、線径0.3mm^{2}としてください。線径が0.3mm^{2}以上の場合は、適合する接続端子（市販品）をご使用ください。

取付場所の選定

〈台所リモコン、サブリモコン（オプション）〉



- 台所リモコン、サブリモコンは必ず屋内の平らな面に取り付けてください。
（凹凸があると取付時に変形して誤動作することがあります。）
- 取付位置はスイッチ操作が容易にでき、表示が良く見えるところ（目の位置より少し下側）を選んでください。
- 台所リモコン、サブリモコンは防水タイプではありません。
- 下記の場所には取り付けないでください。

○ガステーブルの近くなど高温（45℃以上）になるところ	○湯気や水しぶきや油のかかるところ
○浴室など湿気の多いところ	○幼児の手が届くところ
○直射日光のあたるところ	

- リモコンケーブルの長さが50m以内になる場所としてください。
- 台所リモコンを無線タイプのドアホン親機に隣接し設置すると、インターホン使用時にノイズ音を発するおそれがあります。
台所リモコンは無線タイプのドアホン親機より50cm以上離して設置いただくことをおすすめします。

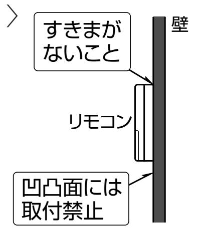
〈浴室リモコン〉

- 浴室リモコンは必ず平らな面に取り付けてください。
（凹凸があると取付時に変形して誤動作することがあります。）
- 取付位置は浴室内のスイッチ操作が容易にでき、表示が良く見えるところ（入浴中の目の位置）を選んでください。
- **浴室リモコンは防水タイプですが、できるだけ湯や水がかかりにくい場所に取付けてください。**
- リモコンケーブルの長さが50m以内になる場所としてください。

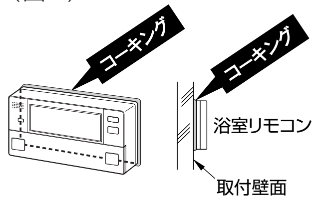
取付時の注意

- リモコンと壁の間にすきまがないように取り付けてください。〈右図1〉
- リモコンケーブルが短絡しないように施工してください。
- **浴室リモコンと浴室壁面のすき間は必ず全周にわたり、シリコン系コーキング剤で十分にシールしてください。〈右図2〉**
（詳細は、リモコンに同梱の説明書をご覧ください。）
- リモコン工事終了後、同梱のパテでリモコンケーブル口をふさいでください。〈右図3〉
（詳細はパテに同梱の説明書をご覧ください。）

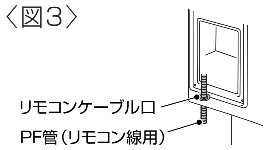
〈図1〉

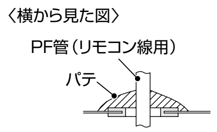


〈図2〉



〈図3〉





5.工事完了確認（試運転）

5-1.チェックリスト

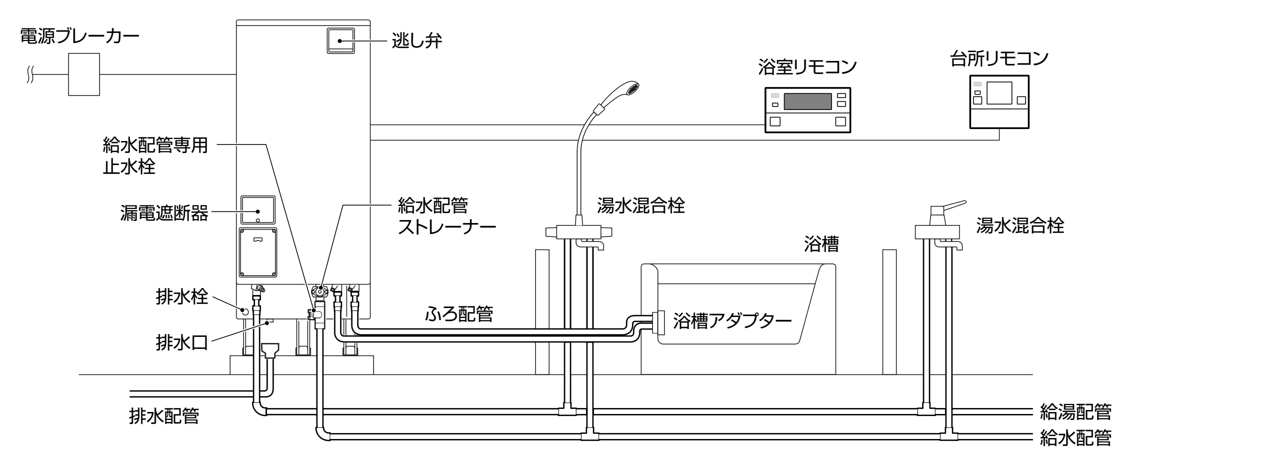
●据付工事後は、下表にあげたチェック項目を確認してください。
不具合があった場合は、必ず直してください。機能が発揮できないばかりか安全性が確保できません。

			判定
据付状態	1	満水時質量に十分耐える基礎工事をしていますか。	
	2	脚をアンカーボルトで固定していますか。	
	3	積雪対策をしていますか。（積雪地域のみ）	
	4	上部振れ止め金具で固定していますか。（2階以上に据え付ける場合）	
	5	メンテナンススペースは確保されていますか。	
	6	設置面は防水、排水処理工事をしていますか。	
	7	可燃性ガスや引火物は近くにありませんか。	
	8	傷や変形はありませんか。	
配管工事	1	給水は水道水ですか。	
	2	各配管の施工制約は、据付工事説明書通りですか。	
	3	各配管の水漏れ、つぶれ、つまりはありませんか。	
	4	各配管に適切な凍結防止工事、保温工事をしましたか。	
	5	給水配管接続口に専用止水栓を設置しましたか。	
	6	浴槽アダプターは当社別売部品を使用していますか。	
	7	排水ホッパーを設置していますか。	
	8	排水口は排水ホッパーの中心に合っており、間隔は50mm以上空いていますか。	
	9	排水配管に排水トラップを設置しましたか。	
	10	ドレンホースを排水ホッパーに導いていますか。	
	11	温水器天面から蛇口までは5m以内ですか。（階下給湯の場合）	
電気工事	1	電力契約（時間帯別電灯／深夜電力）に合った配線になっていますか。	
	2	わき上げ用の電源は単相200Vですか。	
	3	電源ブレーカーの定格、電源線の太さは適切ですか。	
	4	アース工事（D種設置工事）をしていますか。	
	5	電源線、リモコン線を正しく接続していますか。	
	6	200Vターミナルの締付けは十分ですか。（締付基準トルク:3.2～3.6N·m）	
	7	リモコンケーブルの圧着（接続）を確実に行いましたか。（引張強度:35.6N以上）	
	8	配線はケーブル押さえで固定していますか。	
	9	同梱のパテで電源ケーブル口をふさぎましたか。	
	10	工事終了後、工事用窓は閉じましたか。	
その他	1	据付工事説明書通りに試運転を実施し、異常なく終了しましたか。	
	2	据付工事説明書通り、水抜きをしましたか。（施工後すぐに使用しない場合）	
	3	通電制御型の電気料金割引き（詳細は28ページ参照）について、お客さまに説明しましたか。	
	4	お客さまに取扱いについて説明し、取扱説明書、据付工事説明書、保証書、お客さまへのご案内（高圧力型のみ）を渡しましたか。	
	5	湯水混合栓からの流量は十分ですか。	
	6	逃し弁のレバーを手前に起こしたとき、排水ホッパーから排水があふれることはないですか。	

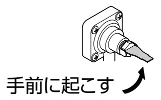
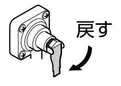
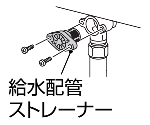
5-2.試運転手順

【お願い】
- お客さま立会いで試運転（湯はりが完了するまで）を実施し、初期設定項目の確認を行ってください。
- 深夜電力で契約の場合は、電力会社の了解を得てタイムスイッチを通電状態にしてから行なってください。
  試運転終了後は、タイムスイッチの時刻を現在時刻に戻してください。
- 通電はタンクを満水にしてから行なってください。満水になる前に通電すると、リモコンに「F07」エラーが表示され、わき上げを行いません。

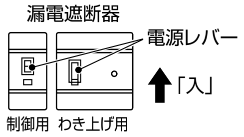
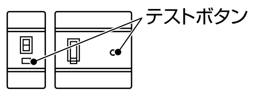
追いだきフルオート、フルオートで説明しています。（屋外設置）　エコオートの場合、ふろ配管は1本です。



〈1〉給水

		注意事項等
1	湯水混合栓が閉じていることを確認し、逃し弁のレバーを手前に起こす 	
2	給水配管専用止水栓を開き、水を入れる	●給水中は排水口より小量の水が出ます。
3	満水になったら、逃し弁のレバーを戻す 排水口から勢いよく水が出てきたら満水です。 （満水までの目安は30分です。） 	●水が出ない場合は、電源ブレーカーを「入」にし、左側（制御用）の漏電遮断器の電源レバーを「入」にして、30秒間放置した後、「切」にしてください。
4	湯水混合栓をお湯側にして開き、水が出ることを確認する	●タンクが満水になるまでは湯水混合栓を開かないでください。
5	給水配管ストレーナー部のゴミつまりを点検する 	●点検は給水配管専用止水栓を閉じて行い、点検終了後に再び開いてください。

〈2〉電源を入れる

		注意事項等
1	電源ブレーカーと温水器の漏電遮断器の電源レバー（2カ所）を「入」にする 電源を入れると、わき上げを開始します。 	●ヒーターへの通電を確認してください。電力量計が動作し、台所リモコンに「わき上げ中」が表示されれば正常です。 ●わき上げ用の漏電遮断器は、機種により形状が異なります。
2	通電後、漏電遮断器の動作確認をする テストボタンを押し「入」になっていた電源レバーが「切」になれば正常です。 	●確認後は電源レバーを「入」に戻してください。

〈3〉わき上げの確認

		注意事項等
1	正常にわき上げしていることを確認する 〈確認方法〉●30分～1時間後に、残湯量表示が点灯する （給水水温によって変動します。） ●温度表示が上昇する	

5-2.試運転手順（つづき）

〈4〉初期設定と湯はり動作の確認

1 台所リモコンで以下の初期設定を行う
①時刻（確認） ②電力契約モード ③わき上げモード

初期設定（台所リモコンで行います。）

①時刻を確認する
時刻が合っていない場合は正確な時刻に合わせてください。

1. [時計合わせ] 3秒以上を押す
2. 選択スイッチ [△] [▽] を押して時刻を合わせる
3. [決定] または [時計合わせ] を押す（設定完了）

②電力契約モード（右表参照）を選ぶ
時間帯別電灯でご契約の場合は、必ず、お客さまご契約の電力制度に合わせてください。
深夜電力でご契約の場合は設定不要です。

1. [決定] を3秒以上押す
2. 選択スイッチ [△] を6回※押す
※追いだきフルオート機種は6回、
エコオート、フルオート機種は5回押す
3. 給湯温度スイッチ [▲] [▼] を押して、モードを選ぶ（設定完了）

通常表示に戻すときは、決定スイッチを押してください。

表示例

③わき上げモードを設定する
使い始めは、「多め」でご使用ください。

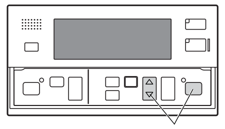
1. [わき上げ設定] を押して、モードを選ぶ（設定完了）

押すごとにモードが切り替わります。

電力契約モードの内容（平成20年10月現在）

表示	適用電力制度
EP 01	● 東京電力：電化上手　● 関西電力：はぴeタイム　● 沖縄電力：Eeらいふ
EP 02	● 中部電力：Eライフプラン
EP 03	● 中国電力：ファミリータイム
EP 04	● 北陸電力：エルフナイト10プラス　● 九州電力：電化deナイト
EP 05	● 東北電力：やりくりナイト8　● 東京電力：おトクなナイト8　● 北陸電力：エルフナイト8　● 中部電力：タイムプラン　● 関西電力：時間帯別電灯　● 九州電力：時間帯別電灯　● 四国電力：電化deナイト、得トクナイト　● 沖縄電力：時間帯別電灯
EP 06	● 東北電力：やりくりナイト10、やりくりナイトS　● 東京電力：おトクなナイト10　● 九州電力：よかナイト10　● 北陸電力：エルフナイト10
EP 07	● 中国電力：エコノミーナイト
EP 08	● 北海道電力：ドリーム8、ドリーム8エコ（夜間時間帯22時～6時）
EP 09	● 北海道電力：ドリーム8、ドリーム8エコ（夜間時間帯23時～7時）
EP 10	● 北海道電力：ドリーム8、ドリーム8エコ（夜間時間帯24時～8時）

	注意事項等
2 浴室リモコンで試運転湯はりを行う 「ふろ温度 [▽]」と「ふろ自動」スイッチを同時に押す 水による「試運転湯はり」を開始します。（湯はりが完了すると、音声またはブザー等でお知らせします。）	● 浴槽の水を排水してから、湯はりをしてください。また、水栓から浴槽への湯はりはしないでください。 ● 必ず湯はりを完了させてください。途中で湯はりを止めたりすると、水位を誤検出し、翌日以降、湯はりが正常に行われない場合があります。（追いだきフルオート、フルオートのみ） ● 設置後1週間程度（湯はり回数6回）は、浴槽の形状を学習するため、湯はり時間が若干長くなります。（追いだきフルオート、フルオートのみ） ● 試運転時の設定湯量により、湯はり時間が異なります。（設定湯量が少なくても動作時間が長くなる場合もあります。） ● 浴槽の湯量（水位）を確認し、お客さまご希望の湯量に合わせてください。



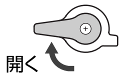
〈5〉リモコン操作の確認

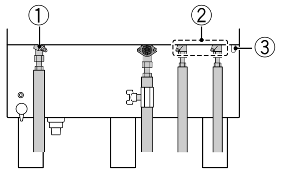
	注意事項等
1 リモコンが取扱説明書の通りに操作できることを確認する	
2 試運転完了後、浴槽の水を排水する	● 漏電遮断器の電源レバーは「入」のままにしておきます。
3 リモコンの設定を記憶させるため、漏電遮断器の電源レバーを「切」にして「入」に戻す	

〈6〉施工後すぐに使用しない場合（施工後すぐに使用する場合は不要です。）

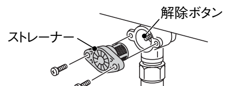
施工後すぐに使用しない場合は、以下の手順で水を排水してください。
水抜きをせずに電源を切り放置すると凍結により機器が破損し、水漏れをすることがあります。

	注意事項等
1 漏電遮断器（2カ所）の電源レバーを「切」にする	
2 給水配管専用止水栓を閉じる	
3 逃し弁のレバーを手前に起こす	
4 排水栓を開く	● 水が抜けるまでに約1時間かかります。
5 水抜き栓を開く	● 排水時はやけどに注意してください。給湯配管用水抜き栓からは熱いお湯が出る場合があります。
6 給水配管のストレーナーを外し、逆止弁の解除ボタンを押す	● 水が飛び散る場合がありますので、ご注意ください。
7 水抜き完了後、1時間程度放置してから、手順4～5で開いた水抜き栓、排水栓を閉じ、ストレーナーを取り付ける	● 逃し弁のレバーは、再び使用するまで起こしたままにしておきます。 ● 温水器を使用するときは、必ず取扱説明書に従ってください。





①	給湯配管用水抜き栓
②	ふろ配管用水抜き栓（エコオートは1カ所）
③	ふろ循環ポンプ用水抜き栓（追いだきフルオート、フルオートのみ）



5-3.お客さまへの説明

(1) お客さまへの説明

- ●取扱説明書を使用して、正しい使い方をお客さまに説明してください。特に「安全のために必ずお守りください」の項は、安全に関する重要な注意事項を記載していますので必ず守るようにご説明ください。「お手入れと点検」の項目や「凍結防止」についても、機器で具体的に説明してください。
- ●設置後すぐにわき上げを開始することがありますが、異常ではありませんのでお客さまへご説明ください。
- ●リフォーム時や浴槽交換時には、必ず、試運転が必要となります。集合住宅などで使用者が不在の場合は、発注者（オーナー、ゼネコン）や管理人へご説明ください。
- ●高圧力型を家庭用以外でご使用のお客さまには、同梱の「事業者さまへのご案内」を読んでいただくようお願いしてください。
- ●同梱の取扱説明書、据付工事説明書（本紙）、保証書等は、所定の記載事項をご確認後、お客さまへ渡してください。

(2) 通電制御割引きについて

- ●この温水器は、申請によって通電制御型として電気料金の割引きが適用されます。適用を受けるため、最寄りの電力会社に申請していただくようお客さまへご説明ください。（買替時などで機種変更した場合も、電力会社へ申請が必要です。）

5-4.エラーコードと処置

リモコンの時計表示部にエラーコードが表示された場合は、下記に従って処置を行なってください。

(1) エラーコード

機種によってエラーコードの有無が異なります。（W:追いだきフルオート、F:フルオート、C:エコオート）

表示		内容	該当コネクタ	処置	W	F	C
U	00	**給水温度高温異常**	−	●給水口にお湯が供給されている → 正しく配管する	○	○	○
U	01	**わき上げ用電力供給無し, 漏電遮断器「切」**	−	●電源ブレーカーと漏電遮断器の電源レバーが「切」になっている →「入」にする	○	○	○
U	03	**ふろ配管のつぶれ(浴槽栓忘れ)**	(P32) (P43)	下記確認後、ふろ自動「入」 ●浴槽アダプター、ふろ配管の凍結・つぶれ・つまりを確認（往き・戻り） ●浴槽栓閉め忘れの確認 ●湯はり設定量の確認（浴槽アダプタより下） → 湯はり量を多くする ●コネクタ（P32、P43）抜けを確認	○	○	−
U	04	湯切れ 注3（エラー履歴のみ表示）	−	●わき増しを行い、湯量を確保	○	○	○
U	05	追いだき能力不足 注3（エラー履歴のみ表示）	−	●わき増しを行い、湯量を確保	○	−	−
U	09	**湯はり試運転異常**	−	●浴槽水排水後、再度試運転を行う	○	○	−
U	10	**高温水遮断形浴槽アダプター動作**	−	●高温水遮断形浴槽アダプター動作 →ふろ配管が冷めてから（目安:20分〜30分）、ふろ自動「入」	−	−	○
U	11	追いだき配管エア抜き不足（エラー履歴のみ表示）	−	●ふろ循環ポンプ用水抜き栓を開いて水が出ることを確認	○	−	−
F	06	**水位センサ 短絡／断線**	P43	●コネクタ抜け確認後、エラー強制解除 ●ふろ配管凍結 → 凍結防止工事実施	○	○	−
F	07	**タンク未満水検知**	P26	●タンク内が満水か確認	○	○	○
F	08	漏水検知（Dタイプのみ）	P45	●漏水箇所の処置をし、漏水センサ部の水抜き後、エラー強制解除	○	−	○
H	01	**リモコン通信異常**	P1	●リモコン形名確認 → 機種（本体）に応じたリモコンに交換 ●温水器に100V電源が供給されている → 200Vに変更	○	○	○
H	01	**リモコン通信異常**	P1	●サブリモコンのみ表示 → 漏電遮断器を「切」→「入」	○	○	○
H	03	**異機種リモコン接続**	P1	●台所リモコンに表示 → 台所リモコン交換 ●浴室リモコンに表示 → 浴室リモコン交換	○	○	○
P	00 10 11	ふろ用電動混合弁異常	P71	●コネクタ抜け確認後、エラー強制解除し、ふろ自動「入」	○	○	○
P	01 20 21	給湯用電動混合弁異常	P72	●コネクタ抜け確認後、エラー強制解除し、蛇口開	○	○	○
P	02	循環フロースイッチ異常	P43	●コネクタ抜け確認後、エラー強制解除し、ふろ自動「入」	○	○	−
P	04	逆止弁異常（エラー履歴のみ表示）	P52	●コネクタ抜けを確認後、エラー強制解除し、蛇口開→エラー履歴確認	○	○	○
P	05	**ふろ用流量センサ／ふろ用電磁弁異常**	P31 P71	●コネクタ抜けを確認後ふろ自動を「入」にし、浴槽アダプター、ふろ配管の凍結・つぶれ・つまりを確認	○	○	○
P	06	わき上げ異常（温度過昇防止器、電磁接触器、上部・下部ヒーター）	P25	●コネクタ抜け確認後、エラー強制解除 ●温度過昇防止器をリセットし、エラー強制解除	○	○	○
P	07	電磁接触器異常					
P	08	わき上げ用ヒーター空焼き検知	P26	●タンク内が満水か確認後、温度過昇防止器をリセットし、エラー強制解除	○	○	○
P	18	ふろ用熱交換器異常	P43	●コネクタ抜け確認後、エラー強制解除	○	−	−
P	30	ふろ循環熱源ポンプ異常	P36	●タンク循環配管エア抜きし、エラー強制解除 ●コネクタ抜け確認後、エラー強制解除	○	−	−
P	35	ふろ用電磁弁閉止異常	P31	●電磁弁のゴミかみを確認後、エラー強制解除 ●コネクタ抜け確認後、エラー強制解除	○	○	○

注1.コネクタ抜け確認時は、中継コネクタの抜けも確認してください。
注2.処置中の「漏電遮断器」は温水器本体の漏電遮断器を示します。
注3.「U04」「U05」エラー発生時、リモコンにはエラーコードでなく「残湯なし」が表示されます。

5-4.エラーコードと処置（つづき）

（2）サーミスタ関連エラーコード（Eエラー）

以下のエラーコードが表示された場合は、コネクタ抜けを確認後、エラー強制解除を行なってください。

表示	サーミスタ名	該当コネクタ	W	F	C
E00	残湯［75L］サーミスタ	P50	○	○	○
E01	水温検知サーミスタ	P50	○	○	○
E02	残湯［200L］サーミスタ	P50	○	○	○
E05	ふろ往き温度サーミスタ	P49	○	○	○
E06	給湯温度サーミスタ	P72	○	○	○
E07	ふろ循環入口サーミスタ	P43	○	○	－
E13	残湯［0L］サーミスタ	P50	○	○	○
E16	給水温度サーミスタ	P52	○	○	○
E17	ふろ循環入口/ふろ往き温度サーミスタ	P43、P49	○	－	－

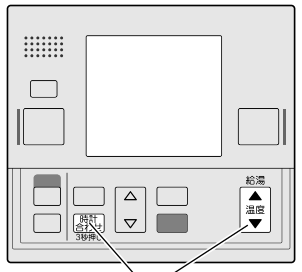
（3）エラーの解除（リセット）方法

すべてのエラーは、台所リモコンのエラー強制解除により、解除できます。

〈解除方法〉

台所リモコンの「時計合わせスイッチ」と
「給湯温度［▼］スイッチ」を3秒以上
同時に押す

RMC-KD3-Wで説明しています。



3秒以上同時に押す

〈解除内容〉

エラーを強制的に解除します。
（異常内容によっては、強制解除後、再びエラーが表示されます。）

※漏電遮断器の電源レバーを「切」にしてから、温水器の制御基板内のリセットスイッチ（SW4）を5秒以上押すことでもエラーは解除できます。

仕様表

タイプ			追いだきフルオート				フルオート			
圧力タイプ			高圧力型				高圧力型		標準圧力型	
形名			SRT-J55W3 SRT-J55WD3	SRT-J46W3 SRT-J46WD3	SRT-J46WDM3	SRT-J37W3 SRT-J37WD3	SRT-J46F3	SRT-J37F3	SRT-J46FH3	SRT-J37FH3
適用電力制度			時間帯別電灯（通電制御型）／深夜電力 8時間 （通電制御型）							
設置場所（推奨）			屋外 屋内・屋外	屋外 屋内・屋外	屋内・屋外	屋外 屋内・屋外	屋外			
タンク容量			0.55m³（550L）	0.46m³（460L）		0.37m³（370L）	0.46m³（460L）	0.37m³（370L）	0.46m³（460L）	0.37m³（370L）
定格電圧	時間帯別電灯契約時		単相200V							
	深夜電力契約時		深夜電力単相200V＋昼間電力単相200V							
定格消費電力	最大消費電力		6.6kW	5.6kW		4.6kW	6.6kW	5.6kW	6.6kW	5.6kW
	ヒーター	上部	6.4kW	5.4kW		4.4kW	5.4kW	4.4kW	5.4kW	4.4kW
		下部	6.4kW	5.4kW		4.4kW	5.4kW	4.4kW	5.4kW	4.4kW
	凍結防止ヒーター		60W							
	ふろ保温時		140W				1.14kW			
わき上げ温度			約75℃～約90℃							
外形寸法	高さ		2100mm	2170mm	1800mm	1830mm	2170mm	1830mm	2170mm	1830mm
	幅		700mm	630mm	700mm	630mm	630mm	630mm	630mm	630mm
	奥行き		825mm	760mm	825mm	760mm	760mm	760mm	760mm	760mm
質量（満水時）			94kg（644kg） 96kg（646kg）	86kg（546kg） 88kg（548kg）	84kg（544kg）	78kg（448kg） 80kg（450kg）	84kg（544kg）	76kg（446kg）	84kg（544kg）	76kg（446kg）
運転音			40dB							
水側最高使用圧力			193kPa（逃し弁設定値）						99kPa（逃し弁設定値）	
安全装置			漏電遮断器、温度過昇防止器、缶体保護弁							

タイプ			エコオート					
圧力タイプ			高圧力型				標準圧力型	
形名			SRT-J55C3 SRT-J55CD3	SRT-J46C3 SRT-J46CD3	SRT-J46CDM3	SRT-J37C3 SRT-J37CD3	SRT-J46CH3	SRT-J37CH3
適用電力制度			時間帯別電灯（通電制御型）／深夜電力 8時間 （通電制御型）					
設置場所（推奨）			屋外 屋内・屋外	屋外 屋内・屋外	屋内・屋外	屋外 屋内・屋外	屋外	
タンク容量			0.55m³（550L）	0.46m³（460L）		0.37m³（370L）	0.46m³（460L）	0.37m³（370L）
定格電圧	時間帯別電灯契約時		単相200V					
	深夜電力契約時		深夜電力単相200V＋昼間電力単相200V					
定格消費電力	最大消費電力		6.5kW	5.5kW		4.5kW	5.5kW	4.5kW
	ヒーター	上部	6.4kW	5.4kW		4.4kW	5.4kW	4.4kW
		下部	6.4kW	5.4kW		4.4kW	5.4kW	4.4kW
	凍結防止ヒーター		48W					
	制御用		20W					
わき上げ温度			約75℃～約90℃					
外形寸法	高さ		2100mm	2170mm	1800mm	1830mm	2170mm	1830mm
	幅		700mm	630mm	700mm	630mm	630mm	630mm
	奥行き		825mm	760mm	825mm	760mm	760mm	760mm
質量（満水時）			89kg（639kg） 91kg（641kg）	81kg（541kg） 83kg（543kg）	79kg（539kg）	73kg（443kg） 75kg（445kg）	81kg（541kg）	73kg（443kg）
運転音			40dB					
水側最高使用圧力			193kPa（逃し弁設定値）				99kPa（逃し弁設定値）	
安全装置			漏電遮断器、温度過昇防止器、缶体保護弁					

*** 工事完了後の確認 ***
（据付工事確認書）

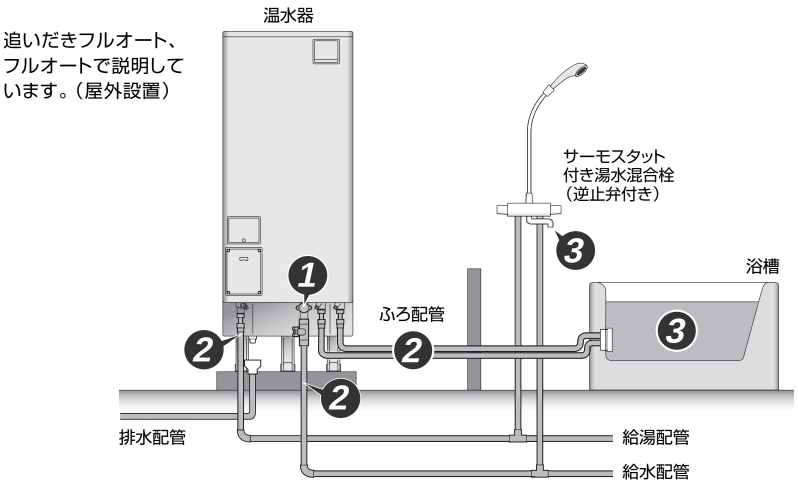
据付工事後の状態を工事店さまとお客さまの間で正しく確認していただくため、下記の内容をお客さまと一緒にご確認ください。本書中のチェックリスト（24ページ）と合わせてご活用ください。

■確認項目

25
□ ❶ **ストレーナーにゴミが詰まっていませんか**

10
□ ❷ **各配管に水漏れ、つぶれ、折れがありませんか**
（各配管に異物は混入していませんか。）

—
□ ❸ **お湯は臭いませんか**
お湯から油が出る、お湯が臭う場合は、タンク内の湯を入れ替えてください。



据付工事	□ 設置場所は据付工事説明書のとおりです。 □ 温水器の満水時重量に十分耐える基礎工事をし、脚をアンカーボルトで固定しています。 □ 機器を上部振れ止め金具で固定しています。（2階以上に据え付ける場合）
配管工事	□ 給水は水道水です。（温泉水・地下水・井戸水は、使用しないでください。） □ 各配管の施工制約は、据付工事説明書のとおりです。 □ 各配管に適切な凍結防止工事、保温工事をしました。 □ 給水配管に専用止水栓を設置しました。 □ 排水は問題なく行えます。（排水口は排水ホッパーの中心に合っており、間隔は50mm以上空いています。）
電気工事	□ 電力契約（時間帯別電灯／深夜電力）に合った配線になっています。電線の太さやブレーカー定格は適切です。 □ アース工事（D種接地工事）を機器に施しています。 □ 電源線、リモコン線を正しく接続し、200Vターミナルへの端子の締め付けは十分です。
その他	□ 据付工事説明書のとおりに試運転を実施し、異常なく終了しました。 □ 据付工事説明書のとおり、機器内の水を抜きました。（施工後、すぐに使用しない場合） □ お客さまに機器の取扱いについて説明し、取扱説明書、据付工事説明書、保証書を渡しました。

■お客さま、工事店さまサイン欄

形名		お客さま	
製造番号		工事店さま	〈店名〉 〈電話番号〉
据付年月日			

注.温水器に記載の形名、製造番号を記入してください。

三菱電機株式会社
群馬製作所　〒370-0492 群馬県太田市岩松町800
電話番号　0276-52-1111（代表）

この据付工事説明書は再生紙を使用しています。

T964Z108H03〈2009-07〉